

科目名 (英)	Psychology I 心理学 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福井 博一
学科・コース	言語聴覚士科・昼間部	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 後半 水曜 1・2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 総合病院・精神科病院等で相談支援・リハビリ業務に携わってきた。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、総合病院・精神科病院・企業の相談室等にてカウンセリングや心理検査に携わってきた講師が、さまざまな視点から人々の心理・発達的基础についてお伝えする。支援を求める人々と実践的にかかわることができるようになるために、実務経験上の具体例をふんだんに盛り込みながらお話をする。							
【到達目標】 次の2点を目標とする。 ①心理学に関する基礎的な知識について理解し、説明することができる。 ②支援を求める人々と実践的にかかわることができるようになるための基礎について理解し、説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 特に指定しない。授業内で、適宜、参考文献を紹介する。				【授業外における学習】 授業内容と、実習やアルバイト、そして、自分自身の日々の生活での出来事を結び付けて調べ・考えることは、立派な授業外における学習である。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 心理学の授業内容・到達目標について理解できる。心とは、ということについて理解し、説明することができる。 【授業内容】 ・オリエンテーション ・心とは			9	【到達目標】 児童期の発達について理解し、説明することができる。 ～その2～ 【授業内容】 ・いじめの現状について ・いじめ防止対策について		
2	【到達目標】 親子関係と発達について理解し、説明することができる。 ～その1～。 【授業内容】 ・精神分析について ・親子関係について			10	【到達目標】 思春期の発達について理解し、説明することができる。 ～その1～ 【授業内容】 ・友人関係について ・恋愛関係について		
3	【到達目標】 親子関係と発達について理解し、説明することができる。 ～その2～。 【授業内容】 ・ひきこもりについて ・反抗期について			11	【到達目標】 思春期の発達について理解し、説明することができる。 ～その2～ 【授業内容】 ・性と心の結びつきについて ・さまざまな性行動について		
4	【到達目標】 親子関係と発達について理解し、説明することができる。 ～その3～。 【授業内容】 ・不安について ・感情の発達について			12	【到達目標】 思春期の発達について理解し、説明することができる。 ～その3～ 【授業内容】 ・LGBT+について ・性別違和について		
5	【到達目標】 親子関係と発達について理解し、説明することができる。 ～その4～。 【授業内容】 ・食育と心の結びつきについて ・摂食障害について			13	【到達目標】 成人期の発達について理解し、説明することができる。 ～その1～ 【授業内容】 ・お金と心の結びつきについて ・対人援助とお金について		
6	【到達目標】 自らの性格について理解し、説明することができる。 【授業内容】 ・性格について ・性格検査について			14	【到達目標】 成人期の発達について理解し、説明することができる。 ～その2～ 【授業内容】 ・結婚について ・結婚に関する意識調査について		
7	【到達目標】 児童期の発達について理解し、説明することができる。 ～その1～ 【授業内容】 ・道徳の発達について ・ギャング・エイジについて			15	【到達目標】 1～14回目の授業内容を振り返り、理解し、説明することができる。 【授業内容】 1～14回目の復習と定期試験		
8	【到達目標】 1～7回目の授業内容を振り返り、理解し、説明することができる。 【授業内容】 1～7回目の復習と中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 特になし。							

科目名 (英)	プロ養成講座 Professional Training	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平野 祐紀
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 1・3限
【実務経験】 言語聴覚士として急性期～回復期～生活期の患者さんへリハビリテーションを提供した経験を持つ							
【授業の学習内容】 社会人に必要な挨拶や礼節やマナーを学びます。調べ学習やフィールドワークにて言語聴覚士の職業理解を深めていきます。学習形態は演習を中心に、個人学習とグループ学習で行います。楽しく、有意義な学習を心がけます。							
【到達目標】 ・場や状況に応じた話し方を身につけ、それを生活や仕事の中で使用できる。会話内容や書かれた文章の内容を正しく理解し、相手の考えや意向を理解できる。 ・社会人へ向けての基本的な規律やマナーを実践できる							
【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じて担当教員が資料や教材を準備します。				【授業外における学習】 授業の内容によって、予習や復習を事前にお知らせします。充実した学習になるように積極的な態度で取り組みましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 自己表現を口頭や文章で正しく表現できる 【授業内容】 実習へ向けて、実習生紹介書記載			9	【到達目標】 障害当事者の気持ちを理解し、適切な関わり方を学び実行できる 【授業内容】 フィールドワーク		
2	【到達目標】 実習へ向けての心構えを理解する 【授業内容】 実習へ向けての心構え、実習地の調べ学習			10	【到達目標】 障害当事者の気持ちを理解し、適切な関わり方を学び実行できる 【授業内容】 フィールドワーク発表		
3	【到達目標】 実習生としての礼節・マナーを学び、実践できる 【授業内容】 実習時の礼節とマナー、レポート作成			11	【到達目標】 障害当事者の気持ちを理解し、適切な関わり方を学び実行できる 【授業内容】 フィールドワーク		
4	【到達目標】 実習を振り返り、自己分析できる。次の実習へ向けて課題や目標を見つける 【授業内容】 実習振り返り、提出物、お礼状			12	【到達目標】 障害当事者の気持ちを理解し、適切な関わり方を学び実行できる 【授業内容】 フィールドワーク発表		
5	【到達目標】 実習を振り返り、自己分析できる。次の実習へ向けて課題や目標を見つける 【授業内容】 実習振り返り、グループワーク			13	【到達目標】 障害当事者の気持ちを理解し、適切な関わり方を学び実行できる 【授業内容】 フィールドワーク		
6	【到達目標】 実習で自身が学んだ事を他者へ伝えることが出来る。多角的な視点で職業理解を深めることが出来る 【授業内容】 実習地で学んだ事発表			14	【到達目標】 障害当事者の気持ちを理解し、適切な関わり方を学び実行できる 【授業内容】 フィールドワーク発表		
7	【到達目標】 職業理解を深め、生活環境下で医療者視点で観察が出来る。 【授業内容】 フィールドワーク;大宮駅周辺のバリアフリーを見つける			15	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、理解を定着させる 【授業内容】 定期試験、講義の振り返り		
8	【到達目標】 職業理解を深め、生活環境下で医療者視点で観察が出来る。 【授業内容】 フィールドワーク発表			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	こども学 Child Education	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	森 静子
学科・コース	言語聴覚士科午前コース	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 火曜 3 限 (13:10～)
【実務経験】 長年の保育所勤務を通し、現場と専門知識をつなぐ学びが重要と保育者養成に携わる							
【授業の学習内容】 子どもの発達の特徴を理解し、個々の子どもの発達状況を把握することができる 乳幼児期に必要な援助や関わりの基本的な考え方について理解し、適切に接する方法を考えることができる							
【到達目標】 子どもの発達の特徴を理解し、個々の子どもの発達状況を把握する							
【使用教科書・教材・参考書】 教員の指示に従い準備をすること(色鉛筆・ハサミ・のり)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 子ども学を学ぶ意義を理解し、こどもを子どもとして捉え学ぶ心構えができる 【授業内容】 子どもの発達を理解する姿勢を整える			9	【到達目標】 子どもを取り巻く制度と法律について知る 【授業内容】 子どもを取り巻く環境を知り、一人ひとりの健やかな育ちを支援していくための様々な制度や法律を知る		
2	【到達目標】 0歳児の発達、言葉を獲得するプロセスを知る 【授業内容】 子どもの誕生から始まる大人とのコミュニケーションについて理解し、非言語によるコミュニケーションの大切さを知る			10	【到達目標】 『保育所保育指針』における乳児保育のポイント① 【授業内容】 育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を知り、保育のねらい及び内容を年齢別にとらえる		
3	【到達目標】 1歳児の発達、愛着関係の形成、こころの育ちを知る 【授業内容】 離乳食、遊び、言葉でのコミュニケーションの始まりなど1歳児の発達段階を知る			11	【到達目標】 『保育所保育指針』における乳児保育のポイント② 【授業内容】 育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を知り、保育のねらい及び内容を年齢別にとらえる		
4	【到達目標】 2～3歳児の発達、言葉の発達と社会性の芽生えを理解する 【授業内容】 2～3歳児の世界を理解し、他者の気持ちに気付くために必要な経験を重ねる子どもについて理解する			12	【到達目標】 保育所で過ごす 1 日の流れ 乳幼児の生活と遊び 【授業内容】 保育所での1日の流れを知り、乳幼児の生活と遊びの基本的事項を知る		
5	【到達目標】 4歳児の発達、遊びを通して子どもは育つことを知る 【授業内容】 3～4歳児の発達を理解し、特徴的な遊びを知る			13	【到達目標】 子どもたちが「遊びこむ」ことを理解し、実際の製作・遊びを通して体験的理解を深める 【授業内容】 遊びにおいて心を動かされる豊かな体験とはどのようなものかを体験を通して知る		
6	【到達目標】 5歳児の発達、集団の中での子どもの心の育ち、遊びの大切さを知る 【授業内容】 5歳児の発達を理解し、自分をイメージしながら遊びこむ子どもの世界を理解する			14	【到達目標】 言葉以外の表現方法の大切さを知る 【授業内容】 非言語の関りの重要性を理解するとともに、子どもが表現する喜びを通じてどんな力が育つかを理解する		
7	【到達目標】 子どもの発達とおもちゃについて理解する 【授業内容】 言語聴覚室内のおもちゃについてこどもの発達と照らしその楽しさを理解する			15	【到達目標】 定期テスト 【授業内容】 子ども学の総復習		
8	【到達目標】 子どもと絵本の世界、絵本と言葉の関係について 【授業内容】 絵本の基本的な知識・読み聞かせの意義と方法を知る			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会人教育 Society Education	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平野 祐紀
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 集中講義
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として急性期～回復期～生活期の患者さんへリハビリテーションを提供した経験を持つ							
【授業の学習内容】 病院、介護老人保健施設、通所訪問リハビリテーション施設、児童発達支援、計4箇所の見学研修を行うことで、講義内容の必要性を実感させたり、言語聴覚士として現場に立つイメージを膨らませ、補わなくてはならない自己の部分に気付かせたい。実習前には、見学研修の意義の理解や、社会人としてのマナーの定着を目指す。また、実習日誌への記載などを通し、2年次からの臨床実習に備える。							
【到達目標】 ・施設概要や多職種の業務内容を説明できる。 ・利用者や多職種とのコミュニケーション技法や、利用者の尊厳を考慮した関わり方を学ぶ。 ・見学研修を通し、2年次からの臨床実習に向けて必要な能力を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 特になし 配布資料				【授業外における学習】 見学施設までの交通手段を確認し、余裕をもった行動や、社会人としてのマナーを日頃から心がけておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 施設の概要や、施設見学の目的や内容を理解する。 社会人としての心構えを自覚し、マナーのある行動をとることができる。 【授業内容】 ・社会人教育の意義 ・社会人としてのマナー、接遇			9	【到達目標】 施設の概要や、施設見学の目的や内容を理解する。 社会人としての心構えを自覚し、マナーある行動をとることができる。 【授業内容】 調べ学習 グループワーク		
2	【到達目標】 施設の概要や、施設見学の目的や内容を理解する。 社会人としての心構えを自覚し、マナーある行動をとることができる。 【授業内容】 ・社会人教育の意義 ・社会人としてのマナー、接遇			10	【到達目標】 施設の概要や、施設見学の目的や内容を理解する。 社会人としての心構えを自覚し、マナーある行動をとることができる。 【授業内容】 調べ学習 グループワーク		
3	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 調べ学習 グループワーク			11	【到達目標】 施設の概要や、施設見学の目的や内容を理解する。 社会人としての心構えを自覚し、マナーある行動をとることができる。 【授業内容】 調べ学習 グループワーク		
4	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 ・多職種連携について ・コミュニケーション方法			12	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 見学研修		
5	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 見学研修			13	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 見学研修		
6	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 見学研修			14	【到達目標】 見学研修で学んだことを、グループワークなどを通じて班ごとにまとめ発表できる。施設や病院での臨床実習に向けた心構えを身に付ける。 【授業内容】 見学研修		
7	【到達目標】 見学研修で学んだことを、グループワークなどを通じて班ごとにまとめ発表できる。施設や病院での臨床実習に向けた心構えを身に付ける。 【授業内容】 見学研修			15	【到達目標】 見学研修で学んだことを、グループワークなどを通じて班ごとにまとめ発表できる。施設や病院での臨床実習に向けた心構えを身に付ける。 【授業内容】 見学研修を通じて学んだことをグループワークで発表		
8	【到達目標】 見学研修で学んだことを、グループワークなどを通じて班ごとにまとめ発表できる。施設や病院での臨床実習に向けた心構えを身に付ける。 【授業内容】 見学研修を通じて学んだことをグループワークで発表			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	コミュニケーション学 Communication Studies	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	柳 忠宏
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金 曜 1限
【実務経験】 子育て支援関連、保育士・放課後児童支援員や保護者への相談支援、カウンセラーとしての心理的支援等に20年携わる経験をもつ。							
【授業の学習内容】 臨床心理学を専門とし、様々な対象への相談支援に関わってきた教員が、「人と関わる・支援する」とはどういうことかという観点から講義を進めていく。コミュニケーションに必須となる理論や技法、社会人になっていく上で理解しておきたい挨拶や敬語表現などを概観していく。日常生活における具体例を通して理解できるように教授していく。様々な事例的内容を取り入れていくことにより実際の心理学の理解を促す。想像力を働かせながら授業を受けることが望まれる。							
【到達目標】 ・基本的対話スキルの習得 ・社会人として必要な対人スキルの習得 ・サービスマインドの理解							
【使用教科書・教材・参考書】 コミュニケーションスキルアップ検定 滋慶教育科学研究所監修				【授業外における学習】 毎回の授業で確実に理解して欲しいことを小テストで出題するため、その内容を確実に復習すること。予習としてテキストを読んでからの受講を望む。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 コミュニケーションの構成要素を列挙できる。 【授業内容】 コミュニケーションとは			9	【到達目標】 サービスマインドとは何か説明できる。 サービスの基本要素を列挙できる。 【授業内容】 サービスの基本要素		
2	【到達目標】 2つの質問形式について説明できる。 ノンバーバルコミュニケーションの重要性 【授業内容】 1対1の会話			10	【到達目標】 サービスの環境要因を列挙できる。 サービスプロセスの要因を列挙できる。 【授業内容】 サービスの環境とプロセス		
3	【到達目標】 上手な断り方とは何か説明できる。 【授業内容】 挨拶と自己紹介			11	【到達目標】 話し合い時における自分の癖を説明できる。 【授業内容】 コンセンサス演習		
4	【到達目標】 話をまとめる方法を列挙できる。 ブレーンストーミングについて説明できる 【授業内容】 報告・連絡・相談			12	【到達目標】 カウンセリングマインドを応用した面談ができる。 【授業内容】 聴く力		
5	【到達目標】 プレゼンテーションの3つのPについて説明できる。 アンガーマネジメントの方法を列挙できる 【授業内容】 プレゼンテーション			13	【到達目標】 伝えるときのポイントを説明できる。 【授業内容】 伝える力		
6	【到達目標】 基本的な敬語表現が間違っていない場合指摘できる。 【授業内容】 基本的な社会スキル			14	【到達目標】 自分の内的準拠枠について説明できる。 【授業内容】 自分と他者の相違		
7	【到達目標】 上座かどこか説明できる。 メール作成ができる。 【授業内容】 接客・訪問			15	【到達目標】 対人援助職に必要な知識・技術が習得できているか確認し、復習に生かす。 【授業内容】 定期試験と振り返り		
8	【到達目標】 7回目までの内容が理解できているか確認する。 【授業内容】 中間テストと振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】 板書をしっかりとノートにとること							

科目名 (英)	社会福祉概論 Overview of social welfare	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高木 亮	
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前 期 水曜 2・3限	
【実務経験】 言語聴覚士として急性期の患者さんへリハビリテーションを提供した経験を持つ								
【授業の学習内容】 精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士として、総合病院・精神科病院・企業の相談室等にて相談支援・リハビリ業務に携わってきた講師が、さまざまな視点から社会福祉についてお伝えする。社会福祉とは、人々の暮らす社会や日々の生活を見つめ、理解し、支援し合うことそのものである、といえる。あらゆる領域の、さまざまな年代の人々とかかわる対人援助職である言語聴覚士を目指す皆さんとともに、ひろく社会福祉について検討する。								
【到達目標】 次の2点を目標とする。 ①社会福祉に関する基礎的な知識について理解し、説明することができる。 ②人々の日々の生活と社会福祉の諸問題について理解し、説明することができる。								
【使用教科書・教材・参考書】 特に指定しない。授業内で、適宜、参考文献を紹介する。				【授業外における学習】 授業内容と、実習やアルバイト、そして、自分自身の日々の生活での出来事を結び付けて調べ・考えることは、立派な授業外における学習である。				
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要			
1	【到達目標】 社会福祉概論の授業内容・到達目標について理解できる。社会福祉とは、ということについて理解し、説明することができる。 【授業内容】 オリエンテーション、社会とは、福祉とは、社会福祉とは			9	【到達目標】 児童期におけるいじめと社会福祉の諸問題について理解し、説明することができる。 【授業内容】 各論3 児童期におけるいじめと社会福祉の諸問題			
2	【到達目標】 社会福祉における対人援助および想像力について理解し、説明することができる。 【授業内容】 総論1 社会福祉における対人援助とは、対人援助における想像力とは			10	【到達目標】 思春期と社会福祉の諸問題について理解し、説明することができる。 【授業内容】 各論4 思春期と社会福祉の諸問題			
3	【到達目標】 日本における社会一家族一個人の関係の歴史の変遷について理解し、説明することができる。 【授業内容】 総論2 日本における社会一家族一個人の関係の歴史の変遷			11	【到達目標】 性と社会福祉の諸問題について理解し、説明することができる。 【授業内容】 各論5 性と社会福祉の諸問題			
4	【到達目標】 現代日本における社会システムー経済システムー政治システムの関係について理解し、説明することができる。 【授業内容】 総論3 現代日本における社会システムー経済システムー政治システムの関係			12	【到達目標】 性別違和と社会福祉の諸問題について理解し、説明することができる。 【授業内容】 各論6 性別違和と社会福祉の諸問題			
5	【到達目標】 社会福祉における対人援助の大きな流れについて理解し、説明することができる。 【授業内容】 総論4 社会福祉における対人援助の大きな流れ			13	【到達目標】 お金と社会福祉の諸問題について理解し、説明することができる。 【授業内容】 各論7 お金と社会福祉の諸問題			
6	【到達目標】 親子関係と社会福祉の諸問題について理解し、説明することができる。 【授業内容】 各論1 親子関係と社会福祉の諸問題			14	【到達目標】 結婚と社会福祉の諸問題について理解し、説明することができる。 【授業内容】 各論8 結婚と社会福祉の諸問題			
7	【到達目標】 食えることと社会福祉の諸問題について理解し、説明することができる。 【授業内容】 各論2 食えることと社会福祉の諸問題			15	【到達目標】 1～14回目の授業内容を振り返り、理解し、説明することができる。 【授業内容】 1～14回目の復習と定期試験			
8	【到達目標】 1～7回目の授業内容を振り返り、理解し、説明することができる。 【授業内容】 1～7回目の復習と中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）				
【特記事項】								

科目名 (英)	コンピューター computer	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	BSC(ブレンスタッフコンサルタンツ)
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科 1年生 AM						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) プログラマー、Webデザイナー、パソコン教室の講師、ITコンサルタントなどの実績を持つ所属インストラクターが講義を実施							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 滋慶学園グループ所属企業の(株)ブレンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについて講義を実施。 Wordのビジネス文章作成や、PowerPointのプレゼンテーションスライド作成を基礎から学習。 学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用。							
【到達目標】 ・タイピングの基礎を身に付ける ・Wordを利用し、複合文書の作成ができる。 ・PowerPointを利用し、効果的なスライドの作成ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、 オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				【授業外における学習】 e-learningテキストで操作方法を確認し、 繰り返し練習することでスキルを定着する			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 CCT入門1 講座を受講する意義やe-learningの操作方法を理解し、PCの基本操作をおこなえる 【授業内容】 ・eラーニングテキストのログイン ・Web検索、PCトラブル時解決			9	【到達目標】 メールマナー 受け取り手に好印象を与えるメールを作成できる 【授業内容】 1.メールの作成方法 2.署名の登録方法 3.添付書類PDF変換方法		
2	【到達目標】 CCT入門2 ITリテラシーを理解してルールを守ったICT活用をおこなえる 【授業内容】 ・ITリテラシー ・タイピング ・Web検索			10	【到達目標】 PowerPoint1(基本操作) プレゼンテーションソフトの基本操作ができる 【授業内容】 1.テーマとバリエーション 2.プレースホルダー 3.箇条書きのレベル変更 4.スライド 5.ノートの作成		
3	【到達目標】 Word基礎1 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる 【授業内容】 1. ビジネス文書とは 2. ページ設定 3. インデント 4. 箇条書きと段落番号 5. 均等割り付け 6. 表の作成			11	【到達目標】 PowerPoint2(表現力を上げる) 図形や画像を活用したスライドを作成できる 【授業内容】 1.ワードアート 2. 画像の挿入 3. テキストボックス 4.図形作成 5.図形の調整 6.削除		
4	【到達目標】 Word基礎2 画像や図形を駆使した文書を作成できる 【授業内容】 1. 図形や画像を駆使した文書 2. 画像の編集 3. テキストボックス 4. Excelグラフの貼り付け 5. 図形の編集			12	【到達目標】 PowerPoint3(動きを付ける) スライドに動きを付け、全てのスライドを完成できる 【授業内容】 1.画面切り替え効果の設定 2.アニメーション効果の設定 3. スライドショー 4. 印刷 5.リハーサル		
5	【到達目標】 Word基礎3 表を駆使した文書を作成できる 【授業内容】 1.表を駆使した文書 2.表の基本 3.複雑な表の作成 4.表の編集			13	【到達目標】 PowerPoint フォントや配色などを工夫して見やすいスライドに編集できる 【授業内容】 1. レイアウト 2. フォント 3. 効果的な表現方法 4. 色の活用		
6	【到達目標】 Word応用 長文作成における必要な操作ができる 【授業内容】 1.ヘッダー・フッター 2.インデント 3.目次 4.セクション区切り・段区切り 5.脚注			14	【到達目標】 PowerPoint試験対策問題 PowerPoint基礎で習ったことを実践できる 【授業内容】 PowerPoint復習問題の実施		
7	【到達目標】 Word試験対策 Word基礎1-3で学んだスキルを実践して文章作成できる 【授業内容】 Word復習問題を実施			15	【到達目標】 PowerPoint試験 前期試験 【授業内容】 前期試験		
8	【到達目標】 Word中テスト 前期中テスト 【授業内容】 前期中テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	英語 I	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	岩淵美嘉
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前 期 金曜日
【実務経験】 医療専門職として病院、クリニックで実務を経験し、米国滞在後は英語教師として医療系専門学校で20年以上英語教育に携わってきた。							
【授業の学習内容】 大学で英米文学を専攻、その後視能訓練士免許を取得、医療現場で実務に携わった経験のある教員が、医療現場に必要な英単語、さまざまな場面での英語表現を教える。外国人の増加に伴い、医療現場でも国際共通語である英語でのコミュニケーションの必要性は高まっている。また海外研修に向けて、ホテルやレストランで積極的に英語でコミュニケーションを取ることができるよう準備する。授業では学生同士ペアで英会話の練習をする。							
【到達目標】 医療現場に必要な専門英単語を覚え、患者さんと英語でコミュニケーションが取れるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】 医療英語コミュニケーション				【授業外における学習】 毎回、前の授業で学んだ医学英語の単語テストを行うため、復習して備えること。			
回	授 業 概 要				授 業 概 要		
1	【到達目標】 英語で自己紹介できる。 初診かどうか、保険証を持っているか等を尋ねる表現を習得する 【授業内容】 自己紹介 & Chapter 1 病院受付での会話			9	【到達目標】 さまざまな薬の英語名称を学び、服用方法を英語で説明できるようになる 【授業内容】 Chapter 17 処方箋と薬の説明		
2	【到達目標】 身体の部位や痛みの表現を学び、英語で簡単な問診ができるようになる 【授業内容】 Chapter 3 症状(1)			10	【到達目標】 海外研修に備えて、金額の読み方やレストランで注文する表現を学ぶ 【授業内容】 Fast food レストランでの会話練習		
3	【到達目標】 前回の授業で学んだ表現を応用して、自分の家族やペットなどについて説明できるようになり、自己紹介の内容をさらに充実させる 【授業内容】 自己紹介 & Chapter 3 症状(1)と応用会話			11	【到達目標】 海外研修に備えて、レストランでのメニューの読み方、注文、支払いの際に用いる表現を学ぶ 【授業内容】 レストランでの会話練習		
4	【到達目標】 さまざまな症状表現を学び、症状について簡単な問診ができるようになる 【授業内容】 Chapter 4 症状(2)			12	【到達目標】 症状や問診の英語表現を復習して、それぞれの症状に対する薬の服用方法を説明する。人体の臓器の英語名称を覚える 【授業内容】 Chapter 17 処方箋と薬の説明 & 臓器の名称		
5	【到達目標】 前回学んだ症状表現を復習し、その症状がどれくらい続いているかを尋ねることができるようになる 【授業内容】 Chapter 4 症状(2)			13	【到達目標】 アレルギーや生活習慣について尋ねることができるようになる 【授業内容】 Chapter 6 問診(2)		
6	【到達目標】 言語聴覚士に必要な症状を追加で覚え、既往歴、家族歴について尋ねることができるようになる 【授業内容】 Chapter 5 問診(1)			14	【到達目標】 海外の人に日本について紹介する際の表現を学ぶ 【授業内容】 英語で寿司、天ぷら等、日本食を説明する練習		
7	【到達目標】 前半の授業で学んだ問診をテキストを見ずに行うことができるようになる 【授業内容】 Chapter 3～5			15	【到達目標】 【授業内容】 期末試験		
8	【到達目標】 前半の授業の内容の定着とSNSを利用して英語で発信 【授業内容】 中間試験と課題提出			【評価について】 毎回の小テストと中間試験で40点、筆記試験による定期試験60点を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	英語 II	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	岩淵美嘉
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後 期 月曜日
【実務経験】 医療専門職として病院、クリニックで実務を経験し、米国滞在後は英語教師として医療系専門学校で20年以上英語教育に携わってきた。							
【到達目標】 大学で英米文学を専攻、その後視能訓練士免許を取得、医療現場で実務に携わった経験のある教員が、医療現場に必要な英単語、さまざまな場面での英語表現を教える。外国人の増加に伴い、医療現場でも国際共通語である英語でのコミュニケーションの必要性は高まっている。また海外研修に向けて、ホテルやレストランで積極的に英語でコミュニケーションを取ることができるよう準備する。授業では学生同士ペアで英会話の練習をする。							
【到達目標】 医療現場に必要な専門英単語を覚え、患者さんと英語でコミュニケーションが取れるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】 医療英語コミュニケーション				【授業外における学習】 毎回、前の授業で学んだ医学英語の単語テストを行うため、復習して備えること。			
回	授 業 概 要				授 業 概 要		
1	【到達目標】 診療科の名称と道案内する際の表現を学び、病院内の案内ができるようになる 【授業内容】 Chapter 2 病院内案内			9	【到達目標】 海外研修に備えて、前期に学んだレストランでの会話を復習し、定着させる 【授業内容】 レストランでの会話練習		
2	【到達目標】 病院で働く医療職の名称を覚え、病院内の案内、さらに地域の道案内ができるようになる 【授業内容】 Chapter 2 病院内案内 & Chapter 1 医療職の名称			10	【到達目標】 救急場面での英単語や表現を習得する 聴覚に関する英単語を覚える 【授業内容】 Chapter 11 救急患者		
3	【到達目標】 国内の観光名所を英語で案内することができる 【授業内容】 日本国内の観光案内			11	【到達目標】 海外研修に備えて、ホテルやお店で目にする英単語を覚え、それぞれの場面に必要な英語表現を習得する 【授業内容】 ホテルや買い物の場面の会話練習		
4	【到達目標】 患者さんにさまざまな依頼や指示をする際の英語表現を習得する 【授業内容】 Chapter 7 内科(1)			12	【到達目標】 カルテで使用される英語を学ぶ 【授業内容】 Chapter 18 カルテ		
5	【到達目標】 バイタルサインに関する英単語を覚え、体温や血圧を測定する際の表現を習得する 【授業内容】 Chapter 8 内科(2) バイタルサイン			13	【到達目標】 前期に学んだ症状や病名の英単語、問診の英語表現を復習する 【授業内容】 Chapter 4 & 5		
6	【到達目標】 検査や処置の際の英語表現を習得する 呼吸に関する英単語を覚える 【授業内容】 Chapter 10 検査と処置 & 呼吸器系の解剖			14	【到達目標】 会計で使用する英単語を学び、次回の予約を確認する表現を習得する 【授業内容】 Chapter 16 会計 & 総復習		
7	【到達目標】 海外研修に備えて、空港や機内で目にする英単語を学び、機内での会話を習得する 【授業内容】 空港や機内での会話			15	【到達目標】 医療現場に必要な専門英単語を覚え、患者さんと英語でコミュニケーションが取れるようになる 【授業内容】 期末試験		
8	【到達目標】 前半の授業の内容の定着 【授業内容】 中間試験 & 自己紹介の練習(誕生日と星座)			【評価について】 毎回の小テストと中間試験で40点、筆記試験による定期試験60点を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	保健体育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	安西真幸	
	health and physical education	授業 形態	演習	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 1・2 限	
学科・コース	言語聴覚士科							
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)								
知的障がい者へのダンス指導 放課後等デイサービス、療育施設、保育園、小学校でのダンスプログラム講師								
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)								
福祉施設や教育施設などで、対象者の年齢や障がいの有無に応じて、レクリエーションプログラムを考案・実施している教員が、現場で得られた経験や知識を元に授業を行い、レクリエーション活動を楽しむ円滑に実践できる能力を養う。								
【到達目標】								
・レクリエーション活動を楽しみ、自ら積極的に取り組むことができる。 ・レクリエーションの知識を元に、対象者や目的に応じて内容を選択・アレンジできる。 ・レクリエーションを円滑に行うためのコミュニケーションを取ることができる。								
【使用教科書・教材・参考書】					【授業外における学習】			
必要に応じて資料を配布する。								
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 グループに分かれ課題やゲームに取り組む。グループ内でコミュニケーションや役割分担等を行う。 【授業内容】 コミュニケーション・ワーク演習				9	【到達目標】 ひとつのレクリエーションから、使う道具や人数などを変えて、別の状況にも対応する内容にアレンジできる。 【授業内容】 レクリエーション・アレンジ演習		
2	【到達目標】 グループに分かれ課題やゲームに取り組む。グループ内でコミュニケーションや役割分担等を行う。 【授業内容】 コミュニケーション・ワーク演習				10	【到達目標】 ひとつのレクリエーションから、使う道具や人数などを変えて、別の状況にも対応する内容にアレンジできる。 【授業内容】 レクリエーション・アレンジ演習		
3	【到達目標】 グループに分かれ課題やゲームに取り組む。設定された目標に対して、グループ内で意見調整を行い、協力して作業を行う。 【授業内容】 コミュニケーション・ワーク演習				11	【到達目標】 グループに分かれ、レクリエーションプログラムを作成・発表できる。 【授業内容】 レクリエーション実践		
4	【到達目標】 グループに分かれ課題やゲームに取り組む。設定された目標に対して、グループ内で意見調整を行い、協力して作業を行う。 【授業内容】 コミュニケーション・ワーク演習				12	【到達目標】 グループに分かれ、レクリエーションプログラムを作成・発表できる。 【授業内容】 レクリエーション実践		
5	【到達目標】 対象者、人数、場所等様々な状況を想定し、それぞれの場合でどのようなレクリエーションを行うか、計画し実施できる。 【授業内容】 状況に応じたレクリエーション演習				13	【到達目標】 グループに分かれ、レクリエーションプログラムを作成・発表できる。 【授業内容】 レクリエーション実践		
6	【到達目標】 対象者、人数、場所等様々な状況を想定し、それぞれの場合でどのようなレクリエーションを行うか、計画し実施できる。 【授業内容】 状況に応じたレクリエーション演習				14	【到達目標】 グループに分かれ、レクリエーションプログラムを作成・発表できる。 【授業内容】 レクリエーション実践		
7	【到達目標】 本講義での学習の理解を確認する。 【授業内容】 中間試験。演習、筆記試験				15	【到達目標】 本講義での学習の理解を確認する。 【授業内容】 定期試験、総復習		
8	【到達目標】 本講義での学習の理解を確認する。 【授業内容】 中間試験。演習、筆記試験				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】								

科目名 (英)	医学総論 Medical introduction	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小林 穰
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前 期 月 曜 2 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 言語聴覚士として、医療に従事していくうえで、幅広い医学知識を持つことは非常に重要な事柄の一つであるといえる。医療従事者として必要な知識、専門用語や歴史、我が国の現状や展望、医療倫理・インフォームドコンセント・チーム医療などについて、具体的にわかりやすい授業を行なう。							
【到達目標】 ① コメディカルに必要とされる医学知識を学び、説明することができる。 ② 我が国の医学の概略、医療全体の現状を学び、今後どのように発展していくかを考え、説明することができる。 ③ 言語聴覚士として、医療分野でどんな役割を持ち、今後どうあるべきかを考え、説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・参考書、配布資料 他				【授業外における学習】 教科書は特にありません。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 医学とはなにか、定義・歴史について学ぶ。医学の発展と倫理観を、医学的、社会的見地から理解し、説明することができる。 【授業内容】 ①医学の定義と使命・歴史 ②医学の発展と倫理			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 我が国における人口統計、疾病について学び、原因、対応だけでなく、生活への影響などを理解し、説明することができる。 【授業内容】 ①人口統計と疾病の変化 ②生活への影響、対応			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 健康とは何か、その概念や「訪台」についてを学ぶ。ICFの大まかな概念を理解し、QOL、医療・生活モデルについて説明することができる。 【授業内容】 ①健康の概念・状態 ②QOL、医療・生活モデル ③ICFの概念・考え方			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 ICFの大まかな概念を理解し、QOL、医療・生活モデルについて説明することができる。 【授業内容】 ①ICFの考え方 ②中間テスト			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 医療に関する職種と施設を知り、現状を把握、理解し、説明することができる。 【授業内容】 ①医療関係の職種 ②医療施設の種類の現状			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 保健医療の対策、各種法規を学び、理解し、説明することができる。 【授業内容】 ①医療保険対策 ②医事法・薬事法・衛生法規			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 感染対策としての基礎知識、原則を学び、標準予防策を理解し、説明、実施することができる。 【授業内容】 ①感染症対策の基礎知識 ②標準予防策			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 医学総論におけるポイント、総合的な理解を再確認する。 【授業内容】 ①医学概論のまとめ ②定期試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	解剖生理学 Anatomical and Physiology	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	坂 英樹, 岩脇淳志, 石井 猛
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	前期 火 曜 1・2 限
【実務経験】 歯科大学において解剖学での講義・実習を担当した経験を持つ。							
【授業の学習内容】 歯科医師として、解剖学・歯科法医学で博士(歯学)を取得した知識と経験から、人体と構造と機能についてpowerpointファイルを用いて提示するとともに、適宜模型を使用し立体的な学習方法により理解を深める。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要となる基本的な人体の構造と機能(特に頭頸部)を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ① 系統解剖学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学 第11版 ②『系統解剖学』準拠 解剖生理学ワークブック				【授業外における学習】 事前に資料と参考書の該当ページを確認し、講義に臨む			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【到達目標】 オリエンテーション 解剖生理学の定義、解剖学用語および細胞・組織を理解できる。 【授業内容】 解剖生理学の定義、解剖学用語、人体の構造、細胞の構造			17・18	【到達目標】 上肢、下肢の骨と筋の作用について理解できる。 蓋骨の構成について理解できる。 【授業内容】 上肢・下肢の骨学、筋学 蓋骨		
3・4	【到達目標】 消化に関わる臓器の構造と機能を理解できる。 【授業内容】 栄養の消化と吸収、口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能			19・20	【到達目標】 頭蓋骨の構成について理解し、付着する筋の作用および支配神経について理解できる。 【授業内容】 頭蓋骨、頭頸部の筋(咀嚼筋)		
5・6	【到達目標】 呼吸に関わる臓器の構造と機能を理解できる。 【授業内容】 呼吸器の構造と機能、機能的メカニズム、ガス交換、呼吸運動、呼吸器系の病態生理			21・22	【到達目標】 頭蓋骨の構成をもとにした頭頸部に付着する筋の作用および支配神経について理解できる。 【授業内容】 頭頸部の筋(表情筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群、咽頭・喉頭筋等)		
7・8	【到達目標】 血液の組成と機能、血液型、心臓の構造と機能について理解できる。 【授業内容】 血液(組成、血液凝固、血液型) 心臓の構造と機能			23・24	【到達目標】 神経系の構造と機能、中枢神経と末梢神経について理解できる。 【授業内容】 神経学総論 中枢神経(脳・脊髄)、末梢神経(脳神経・脊髄神経・自律神経)		
9・10	【到達目標】 血液循環とその調節について理解できる。 【授業内容】 血管の構造、末梢循環系の構造、血液循環(肺循環、体循環)、血液循環の調節			25・26	【到達目標】 感覚器の構造と特殊感覚、感覚と運動の伝導路を理解できる。 【授業内容】 高次機能、特殊感覚(視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚) 感覚器、感覚と運動の伝導路(上行性伝導路、下行性伝導路)		
11・12	【到達目標】 腎臓の構造と機能、体液の調節について理解できる。 【授業内容】 腎臓の構造と機能、排尿路、体液の調節と尿の生成			27・28	【到達目標】 皮膚を含めた生体防御機能、生殖器、発生と老化について理解できる。 【授業内容】 身体機能の防御と適応(皮膚、免疫) 生殖器、発生と老化のしくみ		
13・14	【到達目標】 内分泌系およびホルモン分泌の調節に関わる臓器の構造と機能について理解できる。 【授業内容】 自律神経、内分泌系、内分泌腺と腺細胞、ホルモン分泌			29・30	【到達目標】 これまでの学習内容を復習し、理解度を再確認する。 試験において全範囲の理解度の確認を行う。 【授業内容】 初回より前回までの復習 定期試験・解説		
15・16	【到達目標】 試験において、これまでの内容の理解度を確認する。骨、筋の構造と特徴、および脊柱・胸郭の骨と筋の作用について理解できる。 【授業内容】 中間試験・解説 骨学・筋学総論 脊柱・胸郭の骨学、筋学			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小試験および中間試験を合わせた40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	病理学 Pathology	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	國分克寿
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 2限
【実務経験】 言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。							
【授業の学習内容】 基本的な病変、疾病の成り立ちについて学び、症状を有する方について理解を深める。							
【到達目標】 様々な病気について、原因や病態の進展機序を学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：なるほどなっとく病理学 病態形成の基本的な仕組み 改訂第2版 南山堂				【授業外における学習】 ・復習に力を入れ、専門用語と内容をしっかり結びつける。 ・疑問を放置しない。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 病理学とは何か、主な病変や疾病の成り立ちについて理解する 【授業内容】 病理学とは何か/疾病の原因(外因と内因)			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 免疫系の知識をもとに、感染症について理解する 【授業内容】 感染症			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 炎症とは何か、原因や特徴などを理解する 【授業内容】 炎症と免疫			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 免疫異常により起こる疾患を理解する 【授業内容】 アレルギー、自己免疫疾患			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 前半の講義の振り返し 充血、うっ血、血栓形成、塞栓や梗塞など疾患を知る 【授業内容】 中間テスト、循環異常			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 腫瘍とは何か、悪性腫瘍と良性腫瘍の特徴を理解する 【授業内容】 腫瘍			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 遺伝とは何か、先天異常により起こる疾患を知る 【授業内容】 遺伝と先天異常			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、理解を深め知識を定着させる 【授業内容】 定期試験、講義全体の振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	内科学 Internal Medicine	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小林 亜紀
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 1限
【実務経験】 病院では血液内科・循環器・消化器内科勤務経験、看護学校の教員経験あり。							
【授業の学習内容】 日常耳にする疾患から入り、学生が卒業後出会う機会がある疾患を中心に分かりやすく伝えていく。症状や治療の詳細までを伝えるのではなく、各疾患のポイントと専門職として対応の際に注意したいポイントも含めて理解してもらえるように現場のケースなどを多く取り入れて進めていく。							
【到達目標】 人体の構造と機能をふまえた上で病態を理解することで、医療職としてチームケアにあたることができる。また臨床検査値についても理解することで、臨床現場で患者・利用者と関わるときに異常の早期発見につなげることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版(医学書院)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 病態学とは何かがわかり、フィジカルアセスメントの重要性について理解する。 【授業内容】 病態・疾患学とは			9	【到達目標】 腎臓・尿路系疾患の病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 腎臓・尿路疾患		
2	【到達目標】 循環器の関連性についてイメージができ、主な循環器疾患の病態についてわかる。 【授業内容】 循環器疾患			10	【到達目標】 内分泌・代謝系の病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 内分泌・代謝疾患		
3	【到達目標】 循環器と呼吸器系の関連性について理解でき、呼吸器系の病態がわかる 【授業内容】 循環器疾患・呼吸器疾患			11	【到達目標】 膠原病やアレルギー系の病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 自己免疫・アレルギー疾患		
4	【到達目標】 呼吸器系の病態と症候、治療やかかわりかたについて理解できる 【授業内容】 呼吸器疾患			12	【到達目標】 血液系の病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 血液疾患		
5	【到達目標】 消化管の主な病態と症候、治療やかかわりかたについて理解できる 【授業内容】 消化管疾患			13	【到達目標】 神経・筋系の病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 神経・筋疾患		
6	【到達目標】 消化管の主な病態と症候、治療やかかわりかたについて理解できる 【授業内容】 消化管疾患			14	【到達目標】 内科学にかかわる臨床検査の基準値と異常値を理解できる 【授業内容】 臨床検査		
7	【到達目標】 肝臓・胆のう・膵臓病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 肝・胆・膵疾患			15	【到達目標】 内科学にかかわる臨床検査の基準値と異常値を理解できる 【授業内容】 臨床検査 定期試験		
8	【到達目標】 肝臓・胆のう・膵臓病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 肝・胆・膵疾患			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高木 亮
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前 期 木曜 1・2 限
【実務経験】 言語聴覚士として急性期の患者さんへリハビリテーションを提供した経験を持つ							
【授業の学習内容】 他職種連携などによるチーム単位でのリハビリテーションの提供や情報共有など、言語聴覚士とだけではなしえないリハビリテーションの提供に必要な知識を身につける。病態、評価、リハビリテーションの理解はもちろんのこと、臨床に立った際に求められるそれぞれの職種の立ち位置や情報共有すべきものを伝え、患者のQOLの重要性を学ぶ。							
【到達目標】 言語聴覚士にとって重要なリハビリテーションを医学的側面から理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 リハビリテーションビジュアルブック 第2版 学研メディカル社				【授業外における学習】 ・特に復習に力を入れる ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 リハビリテーションの考え方を学ぶ。リハビリテーションとは何かを深く考える。 【授業内容】 リハビリテーションとは、QOL リハビリテーションの対象			9	【到達目標】 栄養摂取と管理の方法について説明できる。 【授業内容】 栄養摂取方法 栄養とリハビリテーションについて		
2	【到達目標】 医学的リハビリテーションにおけるチーム連携を説明できる。 【授業内容】 多職種連携、言語聴覚士の役割			10	【到達目標】 骨折や変形性関節疾患について理解する。転倒予防に必要な知識を身につける。 【授業内容】 骨折・変形性関節疾患の種類 転倒予防		
3	【到達目標】 医学的リハビリテーションにおける流れと各期について説明できる。 【授業内容】 急性期、回復期、生活期などの各期 リスク管理、ゴール設定			11	【到達目標】 脊髄損傷の病態とリハビリテーションについて理解する。神経・筋疾患の種類を説明できる。 【授業内容】 脳神経系の解剖・生理復習 脊髄損傷		
4	【到達目標】 ICFの考え方と医学的リハビリテーションにおけるICFについて説明できる。 【授業内容】 ICF ICIDH			12	【到達目標】 神経・筋疾患におけるリハビリテーションについて説明できる。 【授業内容】 神経・筋疾患		
5	【到達目標】 脳血管障害の概要と病態・治療法を説明できる。 【授業内容】 脳血管障害の種類と病態 評価法と医学的治療（投薬、手術）			13	【到達目標】 呼吸器疾患、悪性腫瘍などにおけるリハビリテーションについて理解できる。 【授業内容】 呼吸器疾患、循環器疾患、悪性腫瘍		
6	【到達目標】 脳血管障害に対する評価とリハビリテーションについて説明できる。 【授業内容】 脳血管障害患者へ言語聴覚士が行う評価とリハビリテーション			14	【到達目標】 精神・心理面の障害について理解できる。リハビリテーションにおける在宅復帰や環境設定について理解する。 【授業内容】 補助具、福祉機器、社会福祉制度		
7	【到達目標】 脳血管障害と認知症についての病態・治療、リハビリテーションの概要を説明できる。 【授業内容】 認知機能とは 認知機能の評価 認知症の病態と種類 認知症患者のリハビリテーション			15	【到達目標】 これまでの振り返り 【授業内容】 定期試験、授業の振り返り		
8	【到達目標】 これまでの内容を復習し、理解を深める。 廃用症候群の病態と治療、リハビリテーションについて説明できる。 【授業内容】 中間試験 廃用症候群とは 加齢変化			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	臨床歯科医学・口腔外科学 I Clinical Dentistry and Dental Surgery I	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	荘司洋文
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 3 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 歯科大学および短期大学で歯科学生、歯科衛生士科学生に対し30年にわたり教育に携わる。							
【授業の学習内容】 比較的馴染みが薄い歯科医学の専門用語や診療について担当教員が実際の臨床や教育現場で身につけた経験を生かした臨床歯科医学を解説する。担当教員の臨床経験を生かした具体的でわかりやすい質疑を繰り返し、『ことば』や『文字』でアウトプットする機会をつくり記憶の定着を図る授業を行なう。							
【到達目標】 歯・顎・口腔の解剖、組織、生理、加齢的变化を知り、役割を説明できる。歯・顎・口腔領域の疾患を挙げ、特徴、診断法、治療法を説明できる。歯科医療における言語聴覚士の役割を説明できる。歯科疾患および口腔病変を有する患者と言語聴覚士の関わりについて学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学-器質性構音障害- 第2版 (医歯薬出版)				【授業外における学習】 歯科特有の用語について事前に学習し、授業に備える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 歯科医療の歴史と現状を知る 歯科医療における言語聴覚士の役割について理解する。 【授業内容】 歯科医療とは何か・歯科医療における言語聴覚士の役割。			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 歯・口腔・顎・顔面の構造と機能について理解する。 口腔の診断法について説明する。 【授業内容】 歯・口腔・顎・顔面の発生、構造、機能・口腔の診断法。			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置について理解する。 【授業内容】 う蝕、歯髄炎、歯周病、歯列不正、歯の欠損、歯の異常・口腔ケア。			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 口腔・顎・顔面の疾患について理解する。 【授業内容】 先天異常、発育異常、損傷、炎症、感染症、嚢胞と腫瘍および類似疾患、神経系疾患、顎関節疾患、口腔粘膜疾患。			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 咀嚼・摂食・構音障害に対する歯科医学的治療法を理解する。 【授業内容】 手術療法、人工材料による機能回復、再建と機能回復。			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 咀嚼障害について説明できる。 【授業内容】 咀嚼障害の特徴、検査・評価、治療。			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 構音障害について説明できる。 【授業内容】 構音障害のメカニズム、特徴、検査・評価・口腔疾患による構音障害・チームアプローチ。			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 1～7の授業を振り返り、理解を定着させる。 【授業内容】 定期試験・授業の振り返り。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅰ Physical and Functional Diseases of the Respiratory SystemⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	畦地 雄平
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 1・2 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【教員実務経験】 総合病院、訪問看護リハビリステーション勤務時、急性期及び生活期のリハビリテーション業務の実務経験がある。							
【授業の学習内容】 病院、訪問業界で呼吸発声発語の臨床経験を積んできた教員が、呼吸・発声・発語の構造、機能について理解を深められるように、解剖生理学的知識を習得する授業を行う。具体的には、解剖生理学のイメージを抱けるように実際の言語聴覚療法の動画や音声を活用する。また言語聴覚士として専門用語を適切に使用して説明できることを目指す。							
【到達目標】 呼吸、発声、発語の構造と機能を図と対比させて、説明ができる。 呼吸機能障害、音声障害、構音障害を説明するための解剖、生理学的な専門知識を取得し、病態を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 【言語聴覚士のための講義ノート音声系肺・喉頭咽頭・口腔科学】考古堂刊 中野雄一				【授業外における学習】 毎回、授業後に復習をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 呼吸発声発語器官の基本構造が説明できる 【授業内容】 気管・気管支・肺の構造と機能 発語器官の構成、臓器の区部、基本構造			9	【到達目標】 喉頭を形成している喉頭の枠組みを説明できる 内喉頭筋・外喉頭筋の作用、内転外転筋を説明できる 【授業内容】 喉頭の枠組み 内喉頭筋・外喉頭筋		
2	【到達目標】 呼吸・発声発語器官の機能について説明できる 【授業内容】 吸気と呼気の作用とメカニズム			10	【到達目標】 内喉頭筋、外喉頭筋の神経支配を説明することができる 発声メカニズムと音声の生理を説明することができる 【授業内容】 喉頭の神経、声帯の構造 発声のメカニズム(声域・声・声位・声区・高さ・強さ・音色)		
3	【到達目標】 呼吸発声発語器官の主な検査について説明できる 排気量分画を説明できる 【授業内容】 呼吸運動の仕組み 換気、肺容量、呼吸量、時間呼吸量			11	【到達目標】 音声障害と疾患(病態)を知り説明できる。 嚁声を実際に聞きGRBAS尺度で評価できる 【授業内容】 GRBAS尺度の聴覚的印象 音声障害の病態、分類と疾患		
4	【到達目標】 肺機能検査(肺気量分画)について説明ができる 拘束性、閉塞性、混合生換気機能障害の違いを知り説明できる 【授業内容】 肺活量、1秒量と1秒率 拘束性、閉塞性、混合生換気機能障害の違い			12	【到達目標】 構音器の基本構造と機能を説明できる 構音とメカニズムを説明できる 【授業内容】 下顎、舌、口唇、口蓋帆の位置と機能、作用 構音器官と言語音、母音、子音		
5	【到達目標】 肺炎の原因、症状を説明出来る COVID(コビット)-19について説明できる 【授業内容】 呼吸器疾患・肺炎の分類、肺炎の特徴 SARS、COVID(コビット)-19の感染経路、症状、死亡率			13	【到達目標】 構音障害と疾患(病態)について説明できる 【授業内容】 構音障害の症状、構音の異常、鼻咽腔共鳴の異常 構音障害の病態		
6	【到達目標】 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の原因、症状について説明ができる 拘束性肺疾患の病態の説明ができる 【授業内容】 慢性気管支炎 肺気腫			14	【到達目標】 構音障害と疾患(病態)について説明できる 【授業内容】 機能的構音障害 運動性構音障害		
7	【到達目標】 免疫関連肺疾患、肺腫瘍の病態の説明ができる 呼吸器、呼吸運動、検査、呼吸疾患について復習ができる 【授業内容】 免疫関連肺疾患 肺腫瘍			15	【到達目標】 これまで学んだ呼吸発声発語の構造、機能、病態について改めて復習し 理解を深める 【授業内容】 定期テスト 定期テストの解答解説		
8	【到達目標】 これまで学んだ呼吸器、呼吸運動、検査、呼吸器疾患について復習し中 間テストに挑戦す 【授業内容】 呼吸器、呼吸運動、検査、呼吸器疾患について復習 中間テスト、中間テストの解答、解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴覚系の構造機能病態 I Physical and Functional Diseases of the Auditory System I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大田 智之
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 3限
【実務経験】 言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。							
【授業の学習内容】 聴覚系の構造や機能を理解し、病態が起きた場合の症状について理解する							
【到達目標】 聴器の解剖・生理学的知識、聴器に病態について学び、理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学－聴覚障害学 第3版 医学書院				【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる、教科書の該当箇所を熟読する ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 聴覚・聴覚障害についての基本的な知識を理解する 【授業内容】 音と聴覚/聴覚障害とは			9	【到達目標】 伝音性難聴の特徴と、その障害について理解する 【授業内容】 伝音性難聴		
2	【到達目標】 聴覚系の発達について理解する 【授業内容】 聴覚系の発生・発達①			10	【到達目標】 感音性難聴の特徴と、その障害について理解する 【授業内容】 感音性難聴(内耳性難聴)		
3	【到達目標】 聴覚系の発生、聴器の全体的な構造について理解する 【授業内容】 聴覚系の発生・発達② 聴覚系の構造と機能①			11	【到達目標】 蝸牛神経から大脳までの構造や働き、後迷路性難聴について理解する 【授業内容】 後迷路性難聴		
4	【到達目標】 外耳、中耳の構造・機能を理解する 【授業内容】 聴覚系の構造と機能②			12	【到達目標】 混合性、片耳、機能性難聴、その他の併発症状について理解する 【授業内容】 その他の難聴		
5	【到達目標】 内耳(聴覚)の構造・機能を理解する 【授業内容】 聴覚系の構造と機能③			13	【到達目標】 難聴を伴う疾患、遺伝子疾患や家族性難聴などを理解する 【授業内容】 難聴を伴う疾患		
6	【到達目標】 聴覚伝導路(聴覚路)の構造・機能を理解する 【授業内容】 聴覚系の構造と機能④			14	【到達目標】 構造や機能を理解した上で、難聴についてのまとめを行う 【授業内容】 聴覚系の構造機能のまとめと病態		
7	【到達目標】 内耳(平衡器)の構造・機能を理解する 【授業内容】 聴覚系の構造と機能⑤			15	【到達目標】 これまでの講義内容について振り返り、知識を定着させる 【授業内容】 定期テスト、総復習		
8	【到達目標】 前半の授業の振り返りをして、知識を定着させる 【授業内容】 中間テスト、前半の振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	神経系の構造・機能・病態Ⅰ Physical and Functional Diseases of the Nervous SystemⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小林 穰	
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前 期 金 曜 1・2限	
学科・コース	言語聴覚士科							
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験あり。								
【授業の学習内容】 脳・脊髄の中樞神経系、末梢神経系は、感覚受容、情報処理などを行う器官系であり、反応を引き起こすために欠かせない情報伝達を担う。機能が部位ごとに異なり(機能局在)、決まった経路(伝導路)で連絡している。日常生活を営む上で、どのような機能を果たしているか、その働きを理解するために、基本的構造と機能、病態についてわかりやすく学習する。								
【到達目標】 ① 脳や神経の各部名称を説明することができる。 ② 脳・神経疾患の病態や治療を学び、患者の障害像を理解、説明することができる。 ③ 神経系の解剖や機能を結び付けて考えることができる。								
【使用教科書・教材・参考書】 ・「絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム第4版」医学書院 ・参考書 配布資料 他					【授業外における学習】 専門用語について、事前学習をしておくこと。			
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 外力から中枢神経を守るしくみを構築学的な面から学ぶ。「中枢神経系」「末梢神経系」の神経学的な区別、基本原則などを説明できる 【授業内容】 ①中枢神経系をとりまく環境 ②中枢神経系と末梢神経系				9	【到達目標】 運動神経経路、ニューロン、反射、麻痺、症状、感覚を感じるしくみや特徴、伝導路や感覚障害の特徴、てんかんのメカニズムを説明できる。 【授業内容】 ①運動麻痺について ②感覚障害について ③てんかんについて		
2	【到達目標】 中枢神経系の中心である大脳について学ぶ。どのような構成となっているか、どのような働きを説明することができる。 【授業内容】 ①大脳について ②大脳の構成、働き				10	【到達目標】 脳神経の構成を学び、それぞれの神経のしくみ、障害された場合の症状を説明することができる。 【授業内容】 ①それぞれの脳神経について ②しくみ、症状		
3	【到達目標】 中枢神経系の中心である大脳について学ぶ。どのような構成となっているか、どのような働きを説明することができる。 【授業内容】 ①大脳について ②大脳の構成、働き				11	【到達目標】 脳神経の構成を学び、それぞれの神経のしくみ、障害された場合の症状を説明することができる。 【授業内容】 ①それぞれの脳神経について ②しくみ、症状		
4	【到達目標】 小脳について学ぶ。周囲の神経組織との連絡路、脳幹に集中する脳神経核、神経線維について学び、説明できる。 【授業内容】 ①小脳について ②脳幹について				12	【到達目標】 脳神経の構成を学び、それぞれの神経のしくみ、障害された場合の症状を説明できる。摂食嚥下障害の発生メカニズムを説明できる。 【授業内容】 ①それぞれの脳神経について ②しくみ、症状 ③摂食嚥下障害について		
5	【到達目標】 脊髄における運動・感覚神経の脊髄内の走行などを学び、説明できる。脳循環のしくみ、その働き、髄液の働きを学び、説明できる。 【授業内容】 ①脊髄について ②脳循環について ③脳脊髄液について				13	【到達目標】 小脳がもつしくみと、疾患、障害によってみられる症状について説明できる。神経障害によっておこる排尿障害を説明できる。 【授業内容】 ①小脳の障害 ②排尿障害		
6	【到達目標】 意識を保つための仕組みと働き、意識障害をみるポイントを説明できる。脳ヘルニアのメカニズムと病態を知り、特徴を説明することができる。 【授業内容】 ①意識障害について ②脳ヘルニアについて				14	【到達目標】 脳血管障害の分類、症状、好発部位などを知り、治療やケア、合併症などを説明することができる。 【授業内容】 ①脳血管障害について ②分類、症状、好発部位		
7	【到達目標】 言語障害のメカニズム、高次脳機能障害の症状、病果、特徴を説明できる。脳組織の生理的老化や認知症の原因、進行過程、疾患を説明できる。 【授業内容】 ①言語障害について ②高次脳機能障害について ③認知症について				15	【到達目標】 神経系の構造・機能・病態におけるポイント、総合的な理解を再確認する。 【授業内容】 ①神経系のまとめ ②定期試験		
8	【到達目標】 運動神経経路、ニューロン、反射、麻痺、症状などを学ぶ。感覚を感じるしくみや特徴、伝導路や感覚障害の特徴を説明することができる。 【授業内容】 ①運動麻痺について ②感覚障害について ※中間テスト				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】								

科目名 (英)	臨床心理学Ⅰ	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	柳 忠宏
	Clinical PsychologyⅠ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 1限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 臨床心理士、公認心理師。中学・高等学校の教諭として12年の教育臨床経験がある。専門学校のスクールカウンセラーとして、6年の心理臨床経験がある。							
【授業の学習内容】 本科目を通じて、臨床実践にかかわる心理学の理論について、体系的に学習する。 また、内省やグループワークの機会を設ける中で、一人ひとりが自己理解と他者理解を深化させ、臨床場面での素養を醸成してほしい。							
【到達目標】 心の特性や疾患、援助に役立つ理論について説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 第2版 医歯薬出版				【授業外における学習】 心理学の専門的用語がでてくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。 分からない用語は、ネット検索を用いてもよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 類型論を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、パーソナリティ理論			9	【到達目標】 知能検査を説明できる。 【授業内容】 臨床心理学的アセスメント		
2	【到達目標】 特性論を説明できる。 【授業内容】 パーソナリティ理論			10	【到達目標】 発達検査を説明できる。 【授業内容】 臨床心理学的アセスメント		
3	【到達目標】 発達障害を説明できる。 【授業内容】 発達各期における心理臨床			11	【到達目標】 パーソナリティ検査、面接、行動観察を説明できる。 【授業内容】 臨床心理学的アセスメント		
4	【到達目標】 不登校、引きこもり、摂食障害、自我同一性の障害を説明できる。 【授業内容】 発達各期における心理臨床			12	【到達目標】 クライアント中心療法、精神分析療法、遊戯療法を説明できる。 【授業内容】 心理療法		
5	【到達目標】 精神分析、気分障害、統合失調症を説明できる。 【授業内容】 異常心理			13	【到達目標】 行動療法、認知療法を説明できる。 【授業内容】 心理療法		
6	【到達目標】 心的外傷およびストレス因関連障害、パーソナリティ障害、不安症、強迫症を説明できる。 【授業内容】 異常心理			14	【到達目標】 集団心理療法、家族療法を説明できる。 【授業内容】 心理療法		
7	【到達目標】 心身症、意識の障害、診断基準・国際的疾患分類(DSM、ICD)を説明できる。 【授業内容】 異常心理			15	【到達目標】 定期試験でおさらいをし、臨床心理学の理解を深める。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 中間試験でおさらいをし、臨床心理学の理解を深める。 知能検査を説明できる。 【授業内容】 中間試験、臨床心理学的アセスメント			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 板書したこと等は必ずメモをとること。							

科目名 (英)	生涯発達心理学Ⅰ Life-long Developmental PsychologyⅠ	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	田島 葵 後期 金曜 2限
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 公認心理師として、発達障害児への個別療育やソーシャルスキルトレーニング、保護者への相談支援、スクールカウンセラー等の心理的支援に携わっている							
【授業の学習内容】 本科目を通じて、臨床実践にかかわる生涯発達心理学の理論について、体系的に学習する。 また、内省やグループワークの機会を設ける中で、一人ひとりが自己理解と他者理解を深化させ、臨床場面での素養を醸成してほしい。							
【到達目標】 新生児期から老年期における心理機能の仕組みや発達を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 第2版 医歯薬出版				【授業外における学習】 心理学の専門的用語がでてくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。分からない用語は、ネット検索を用いてもよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 発達の規定要因を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、発達の概念			9	【到達目標】 自我同一性の確立を説明できる。 【授業内容】 青年期		
2	【到達目標】 発達研究法、発達理論を説明できる。 【授業内容】 発達の概念			10	【到達目標】 知的機能の発達を説明できる。 【授業内容】 青年期		
3	【到達目標】 知覚・認知の発達を説明できる。 【授業内容】 新生児期・乳児期			11	【到達目標】 職業生活、家族生活を説明できる。 【授業内容】 成人期・老年期		
4	【到達目標】 運動の発達を説明できる。 【授業内容】 新生児期・乳児期			12	【到達目標】 加齢を説明できる。 【授業内容】 成人期・老年期		
5	【到達目標】 愛着と社会性の発達を説明できる。 【授業内容】 新生児期・乳児期			13	【到達目標】 知的機能を説明できる。 【授業内容】 成人期・老年期		
6	【到達目標】 遊びと認知機能の発達を説明できる。 【授業内容】 幼児期・児童期			14	【到達目標】 死への対応を説明できる。 【授業内容】 成人期・老年期		
7	【到達目標】 自己・他者認知の発達と仲間関係、保育・学校教育と発達を説明できる。 【授業内容】 幼児期・児童期			15	【到達目標】 定期試験でおさらいをし、生涯発達心理学の理解を深める。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 中間試験でおさらいをし、生涯発達心理学の理解を深める。 親子関係・友人関係を説明できる。 【授業内容】 中間試験、青年期			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 板書したこと等は必ずメモをとること。							

科目名 (英)	音声学Ⅰ PhoneticsⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平野 祐紀
学科・コース	言語聴覚士科Ⅰ部	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 3限
【実務経験】 言語聴覚士として急性期～回復期～生活期の患者さんへリハビリテーションを提供した経験を持つ							
【授業の学習内容】 日本語の音声を中心に、音声を生成する仕組みや音声の特徴、それらに必要な知識について学ぶ。また、音声学の言語聴覚療法の活かし方を理解する。							
【到達目標】 音声を調音様式と調音点という視点でまとめ、表記方法を学ぶ。抑揚や調音結合など話しことばの変化にも注目する。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版」 医学書院				【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 音声学で学ぶ内容、発声発語器官の構造を理解する 【授業内容】 音声学の基礎、音声学とは何か			9	【到達目標】 有気音と無気音、非肺気流を理解する 【授業内容】 国際音声記号⑤		
2	【到達目標】 母音と子音の構音、分節音を理解する 【授業内容】 構音とは、分節音・音素			10	【到達目標】 副次調音を理解する 【授業内容】 国際音声記号⑥		
3	【到達目標】 二重分節、相補分布、条件異音、自由変音を理解する 【授業内容】 国際音声記号と分節音			11	【到達目標】 母音の分類・構音方法、母音のその他の分類を理解する 【授業内容】 国際音声記号⑦		
4	【到達目標】 子音(破裂音、鼻音など)の特徴を理解する 【授業内容】 国際音声記号①			12	【到達目標】 調音結合、同化を理解する 【授業内容】 調音結合、同化		
5	【到達目標】 子音(ふるえ音、はじき音、摩擦音など)の特徴を理解する 【授業内容】 国際音声記号②			13	【到達目標】 日本語の超分節的要素を理解する 【授業内容】 超分節的要素		
6	【到達目標】 子音(側面摩擦音、接近音、側面接近音など)の特徴を理解する 【授業内容】 国際音声記号③			14	【到達目標】 日本語の音声学的特徴、モーラと音節を理解する 【授業内容】 日本語音声学		
7	【到達目標】 子音(破擦音など)の特徴を理解する 【授業内容】 国際音声記号④			15	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、音声学についての理解を定着させる 【授業内容】 定期試験、講義の振り返り		
8	【到達目標】 講義の前半の振り返りをし、知識を定着させる 【授業内容】 中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達学 前期 (Speech Development I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	小澤 佳夜子 前期 水曜 3限
		授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 医療機関、通所介護・訪問介護施設でのリハビリ職員。児童発達支援・放課後等デイサービスの支援員。児童発達支援センターでの専門相談員。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 現在、児童発達支援センターの専門相談員として発達障害児の臨床を行う言語聴覚士が授業を行う。 言語は単にコミュニケーションの手段のみならず、言語獲得は認知発達、社会生活、自己概念形成まで及ぼすこと、いわゆる人として生きていく要因の基であることを念頭に置き、その上で実際の相談内容を交えながら小児の言語発達の各段階についての授業を行う。							
【到達目標】 ・言語の役割、言語発達の理論の概要を説明できる。 ・小児の発達の各領域について説明できる。 ・スクリーニングで使用する発達検査ができる。(KIDS、遠城寺式、PVT-R、質問応答検査)							
【使用教科書・教材・参考書】 音声学・言語学 第2班 (医学書院) 言語発達障害学 第2班(医歯薬出版株式会社)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語発達学の授業内容を理解する 【授業内容】 小児分野でのSTの仕事。「言語発達学 I」オリエンテーション。 「言葉」とは何か(皆さんの「言葉」のイメージを教えてください)			9	【到達目標】 幼児期の言語発達を学習する① 【授業内容】 幼児期はコミュニケーション言語が完成する。2回にわたり、幼児期の認知の発達と、年齢別の発話の特徴を解説します。		
2	【到達目標】 言語発達の全体像を把握する 【授業内容】 「しゃべる」とはどういうことか。「しゃべる」ために必要なことは何か。 普段使い慣れた「言葉」について専門的に説明します。			10	【到達目標】 幼児期の言語発達を学習する② 【授業内容】 幼児期の言語発達を主に言語学的な観点から学習します。(語彙・構文・談話の発達と音韻意識の発達)		
3	【到達目標】 言語発達を説明する理論を学ぶ 【授業内容】 言語発達は心理学の分野から説明されることが多い。言語発達に関わる理論を歴史的に概観し、心理学用語も覚えましょう。			11	【到達目標】 学童期の言語発達を学習する① 【授業内容】 コミュニケーション言語から学習言語へ移行する時にどのような力が必要になるのかを解説します。		
4	【到達目標】 前言語期の言語発達を学習する① 【授業内容】 生後1年間の音声知覚の発達と前言語期のコミュニケーション行動の発達を説明。国試頻出の用語が多いのでしっかり記憶します。			12	【到達目標】 学童期の言語発達を学習する② 【授業内容】 第11回に続き、学童期の学習言語に必要な力を解説。さらに、読み書きの発達と読み書き障害について学習します。		
5	【到達目標】 前言語期の言語発達を学習する② 【授業内容】 第4回目に続き、前言語期の認知機能の発達と運動機能の発達、発声及び音声の発達を学習します。			13	【到達目標】 言語発達障害の評価を学ぶ 【授業内容】 言語発達障害の評価はどのようにおこなわれているのか、臨床現場での評価の流れを説明。スクリーニング検査を解説し実践します		
6	【到達目標】 1～2歳の言語発達を学習する① 【授業内容】 言葉を話すようになる前後、子どもはどのようなコミュニケーションをしているのか、言葉はどのように増えていくのかを学習します。			14	【到達目標】 言語発達障害の評価ができる 【授業内容】 スクリーニング検査(KIDS、遠城寺式、PVT-R、質問応答検査)を実践します。		
7	【到達目標】 1～2歳の言語発達を学習する② 【授業内容】 言葉が増え、構文へと発達する過程を伝える。また、言語発達に必要な象徴機能や言語発達を促すかわりを解説します。			15	【到達目標】 言語発達学 I まとめ 【授業内容】 第1回～第14回までの授業内容の定期試験を行います。また、試験後に解説を行い言語発達学 I のまとめとします。		
8	【到達目標】 言語の役割、言語発達の理論、言語発達の過程の知識の定着 【授業内容】 第1回～第7回までの授業内容の中間試験を行います。試験後には解説を行います。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害概論 Introduction to Speech and Hearing Disabilities	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小林 穰
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 1限
学科・コース	言語聴覚士科						
【教員実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 0歳から高齢者までの医療・療育・教育・在宅での幅広い臨床経験を活かし、それぞれの言語聴覚障害の症例を紹介したり動画などを用いて、印象に残る授業を行う。本科目は、専門分野の導入的な授業であり、言語聴覚障害の各論の概論について学ぶ。多くの言語聴覚障害についてイメージを膨らませ、言語障害の当事者や家族の困り感を感じられるようになってほしい。							
【到達目標】 ・言語聴覚障害の種類、コミュニケーションの特徴が分かる。 ・失語症、言語発達障害、高次脳機能障害、音声障害、構音障害、吃音、摂食嚥下障害、聴覚障害の概要が分かる。 ・ICFや職業倫理や言語聴覚士法が分かる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版」医学書院				【授業外における学習】 教科書該当ページを読んで予習できると良い。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語聴覚障害の種類が分かる。今後の教育内容が分かる。 【授業内容】p2-5,36-41 言語聴覚障害の3大タイプや狭義広義の言語聴覚障害について学ぶ。言語聴覚士科Ⅱ部で学ぶ科目の内容について学ぶ。			9	【到達目標】 運動障害性構音障害のタイプや症状や評価の概要が分かる。 【授業内容】p142-150 症状をCDを聞きながら学ぶ。標準ディサースリア検査や治療の概要について学ぶ。		
2	【到達目標】 言語以外のノンバーバルコミュニケーションが分かる。コミュニケーションの過程が分かる。 【授業内容】p45-52 コミュニケーションの成り立ち、言語コミュニケーションの過程、言語聴覚障害の種類について学ぶ。			10	【到達目標】 吃音の症状や原因が分かる。吃音の評価や指導の概要が分かる。 【授業内容】p151-159 事例を通して、連発・伸発・難発などの症状や困り感を理解する。吃音の原因や間接的・直接的アプローチについて学ぶ。		
3	【到達目標】 失語症の聴く・話す・読む・書くの症状やタイプが分かる。失語症の評価の概要が分かる。 【授業内容】p88-97 失語症の基本概念、症状、タイプ、評価の流れについて、動画を用いて学ぶ。			11	【到達目標】 摂食嚥下障害の5期モデルが分かる。スクリーニングと代表的な訓練法が分かる。 【授業内容】p160-170 健常の摂食嚥下のしくみや誤嚥について学ぶ。RSSTやMWSTについて演習をまじえて学ぶ。		
4	【到達目標】 言語発達障害の分類と治療の概要が分かる。 【授業内容】p99-107 SLIやASDなどの特徴、評価診断のポイント、代表的な言語治療について学ぶ。			12	【到達目標】 聴覚障害の種類やコミュニケーションモードが分かる。指文字や簡単な手話ができる。 【授業内容】p172-180 事例を通して聴覚障害者の生き方を考える。簡単な手話や指文字を学ぶ。新生児の難聴のスクリーニングとケアを学ぶ。		
5	【到達目標】 高次脳機能障害の種類と症状が分かる。 【授業内容】p109-117 事例動画を見ながら、失行、半側空間無視、構成障害、注意障害などの臨床によく出会う障害の特徴について学ぶ。			13	【到達目標】 医療倫理や言語聴覚士の倫理が分かる。言語聴覚士法の要点が分かる。 【授業内容】p207-209, p219-220 言語聴覚士法の欠格事由・免許の交付・診療の補助行為・連携・守秘義務・名称独占・厚生労働省令で定める行為について学ぶ。		
6	【到達目標】 音声障害の評価の概要が分かる。喉頭摘出後のコミュニケーションが分かる。 【授業内容】p121-128 声が出るしくみ、音声障害の評価や分類や治療の概要を学ぶ。喉摘後の人工喉頭、食道発声、気管食道瘻発声について学ぶ。			14	【到達目標】 これまでの学習内容を復習し、臨床実習や国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 これまでの学習内容について、問題を解きながら復習する。		
7	【到達目標】 機能性構音障害の構音の誤りが分かる。評価や治療の概要が分かる。 【授業内容】p136-141 代表的な構音方法や異常構音について学ぶ。構音検査と構音治療の概要について演習もまじえて学ぶ。			15	【到達目標】 定期試験を通し、これまでの学習を総復習する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。		
8	【到達目標】 ICFモデルが分かる。 【授業内容】p188-195 中間試験を実施する。機能・活動・参加・環境因子などのICFモデルについて、自身を振り返り内容を考える。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅰ Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中澤 裕也
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ボーテージ早期教育プログラム認定相談員。							
【授業の学習内容】 小児の障害児通園施設で、言語発達障害児に対して言語聴覚療法を実践してきた教員の経験を生かして、分かりやすい質疑を実施し知識の理解を深める。また、実習機関のスーパーバイザーとしての実績を生かして、小児実習に必要な知識を講義する。さらに、言語発達障害児の評価・言語病理学的診断に必要な検査法をビデオや実際の検査用具を使用し、実践的な理解を目指す。							
【到達目標】 ・定形発達を理解することにより、言語発達障害児に対する行動評価を行う事が出来る。 ・言語病理学的診断に必要な言語発達検査・知能検査の実施方法・結果の解釈を演習形式で学び理解を深める。 ・小児学内実習に向けて必要な知識を学び、スムーズに実習を行う事が出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「言語聴覚士のための臨床実習テキスト(小児編)」 建帛社 「言語聴覚診断—小児編」 医学と看護社 ・各検査マニュアル ・配布資料				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので、予習復習を行う事。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語発達障害の概要と支援の場にあった評価の目的や発達段階による評価の目的について学び、説明できる。 【授業内容】 言語発達障害とは 言語発達障害の評価の目的について			9	【到達目標】 WISC-Ⅳ知能検査の下位検査の評価点・指標得点・全検査IQ(FSIQ)の算出方法を学び、実施することができる。 【授業内容】 下位検査の評価点・指標得点・全検査IQ(FSIQ)の算出方法の演習		
2	【到達目標】 S-S法の動画を見て、実施方法を理解する。またマニュアルから概要・一般的な実施手順について理解し、説明出来る。 【授業内容】 S-S法の概要・実施手順。言語行動の3側面(「基礎のプロセス」「記号形式—指示内容関係」「コミュニケーション態度」)について			10	【到達目標】 WISC-Ⅳ知能検査の障害特性による結果の現れ方を学び、結果の考察ができる。中間テスト。 【授業内容】 障害別に現れやすい指標ごとの差について。 中間テスト		
3	【到達目標】 S-S法の段階2・3についての実施方法を学び、実施する事ができる。 【授業内容】 段階2・3についての実施手順の確認と演習。			11	【到達目標】 絵画語い発達検査(PVT-R)と質問-応答関係検査について、概要と目的を学び、説明できる。また、グループで検査を実施することが出来る。 【授業内容】 絵画語い発達検査(PVT-R)と質問-応答関係検査の演習。		
4	【到達目標】 S-S法の段階4・5についての実施方法を学び、実施する事ができる。 【授業内容】 段階4・5についての実施手順の確認と演習。			12	【到達目標】 対症児の情報収集の目的と、基礎情報・現症に関する情報等で収集する情報について学び、説明できる。 【授業内容】 レポートをまとめる際の情報収集の仕方や項目について。 基礎情報の概要について。		
5	【到達目標】 S-S法のサマリーへの記入方法を学び、記入する事ができる。また、検査結果と評価のまとめの記入方法を学び、実施出来る。 【授業内容】 検査結果の記入の仕方。(結果の記録・まとめ)			13	【到達目標】 ケースレポートの意義・記載すべき内容と留意点を理解する。また、ケースレポートの例を参考に、まとめ方を学ぶ。 【授業内容】 例から報告書のまとめ方のポイント・記載内容・記載時の留意点について		
6	【到達目標】 WISC-Ⅳ知能検査の概要・目的を理解し、説明出来る。 【授業内容】 WISC-Ⅳ知能検査の概要・目的について 適応年齢と測定できる項目と概要について。			14	【到達目標】 ケースレポートの意義・記載すべき内容と留意点を理解する。また、ケースレポートの例を参考に、まとめ方を学ぶ。 【授業内容】 例から報告書のまとめ方のポイント・記載内容・記載時の留意点について		
7	【到達目標】 言語理解指標(VCI)の下位検査とワーキングメモリー指標(WMI)の下位検査について、実施方法と結果の記入方法を学び、実施できる。 【授業内容】 VCIの下位検査(類似・単語・理解・知識・語の推理) WMIの下位検査(数唱・語音整列・算数)の演習			15	【到達目標】 講義内容についての定期試験を実施し、知識の定着を図る。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 知覚推理指標(PRI)の下位検査(積木模様・絵の概念・行列推理・絵の完成)と処理速度指標(PSI)の下位検査(符号・記号探し・絵の抹消)について、実施方法と結果の記入方法を学び、実施出来る。 【授業内容】 PRIの下位検査(積木模様・絵の概念・行列推理・絵の完成) PSIの下位検査(符号・記号探し・絵の抹消)の演習			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	失語症Ⅰ aphasiaⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小林 穰
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 水 曜 2・3 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 言語に関わる脳の構造や機能、失語症の言語症状や発生機序などを、実務経験を生かし、具体的にわかりやすく授業を行なう。本科目では、失語症における言語症状、原因となる疾患などを理解した上で、失語症のタイプ分類を学ぶ。また、実際の失語症検査、その他の検査を使用して、ロールプレイ形式で学びを深めていく。							
【到達目標】 ① 失語症の症状、原因疾患、基礎知識を学び、理解し、説明することができる。 ② 失語症候群の分類を学び、随伴しやすい障害を理解し、説明することができる。 ③ 失語症検査の概要を理解し、手順やまとめ方を学び、実施することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「標準言語聴覚障害学 失語症学第2版」医学書院 ・配布資料 他				【授業外における学習】 専門用語について、事前学習をしておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 失語症の基礎的知識を理解する。失語症がどのような原因で出現するのか、原因となる疾患について説明することができる。 【授業内容】 ①失語症とは何か ②失語症の原因疾患			9	【到達目標】 交叉性失語・皮質下性失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ①失語症候群、交叉性失語・皮質下性失語の理解		
2	【到達目標】 失語症のタイプ分類や、メカニズムの推測に重要な言語症状、近縁症状、随伴しやすい障害を学び、説明することができる。 【授業内容】 ①失語症の症状 ②失語症のタイプ分類			10	【到達目標】 純粋型・原発性進行性失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ①失語症候群、純粋型・原発性進行性失語の理解		
3	【到達目標】 古典的分類におけるブローカ失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ① 失語症候群、ブローカ失語の理解			11	【到達目標】 失語症の評価・診断の原則、情報収集や鑑別、標準失語症検査の検査の概要を理解し、手順や採点法・まとめを修得し、実施することができる。 【授業内容】 ①失語症の評価・診断 ②原則・情報収集・鑑別診断		
4	【到達目標】 古典的分類におけるウェルニッケ失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ①失語症候群、ウェルニッケ失語の理解			12	【到達目標】 失語症の評価・診断の原則、情報収集や鑑別、標準失語症検査の検査の概要を理解し、手順や採点法・まとめを修得し、実施することができる。 【授業内容】 ①失語症の評価・診断 ②原則・情報収集・鑑別診断		
5	【到達目標】 古典的分類における伝導失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ① 失語症候群、伝導失語の理解			13	【到達目標】 失語症の評価・診断の原則、情報収集や鑑別、標準失語症検査の検査の概要を理解し、手順や採点法・まとめを修得し、実施することができる。 【授業内容】 ①失語症の評価・診断 ②原則・情報収集・鑑別診断		
6	【到達目標】 古典的分類における健忘失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ①失語症候群、健忘失語の理解			14	【到達目標】 失語症の評価・診断の原則、情報収集や鑑別、標準失語症検査の検査の概要を理解し、手順や採点法・まとめを修得し、実施することができる。 【授業内容】 ①失語症の評価・診断 ②原則・情報収集・鑑別診断		
7	【到達目標】 古典的分類における超皮質性失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを理解する。 【授業内容】 ①失語症候群、超皮質性失語の理解			15	【到達目標】 失語症の基礎的な知識、タイプ分類を理解し、適切な評価・診断ができる。総合的な理解を確認する。 【授業内容】 ①失語症の評価・診断のまとめ ②定期試験		
8	【到達目標】 古典的分類における超皮質性失語・全失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ①失語症候群、超皮質性失語、全失語の理解 ②中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	高次脳機能障害学Ⅰ Higer Brain DysfunctionⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中村 勇輝
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 1.2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として、生活期の言語サービスや外来リハビリテーションでの経験を持つ。現在も現場で臨床を行っている。							
【授業の学習内容】 生活期の言語サービス、外来リハビリにて言語症状や高次脳機能障害者の評価、リハビリ、復職支援を現役で実施している教員が、臨床経験を活かして講義と演習を行う。高次脳機能障害にかかわる脳の構造や機能を知り、高次脳機能障害の症状の基礎、評価方法を指導する。臨床の現場での高次脳機能障害の実例の紹介も交えながら講義を行う。							
【到達目標】 高次脳機能障害の症状を理解し、自身の言葉で説明できる。 高次脳機能障害の検査手続きを実施できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版」医学書院				【授業外における学習】 講義範囲での復習をし、理解ができない部分は質問をして下さい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 高次脳機能障害による問題や、生活上の困難さを説明できる 高次脳機能障害の定義、原因疾患、疾患による症状を説明できる 【授業内容】 高次脳機能障害の実例紹介 高次脳機能障害の定義、原因疾患、疾患			9	【到達目標】 前頭葉の構造と機能、損傷による主要な高次脳機能障害を説明できる 【授業内容】 前頭葉の構造と機能、前頭葉損傷による主要な高次脳機能障害		
2	【到達目標】 半側空間無視の定義、症状、病巣を説明できる 半側空間無視の評価、リハビリテーションの方法を説明できる 【授業内容】 視空間障害における半側空間無視			10	【到達目標】 前頭葉損傷による注意機能障害、遂行機能障害、感情失禁、保続の症状、病巣、発症メカニズムを説明できる 【授業内容】 前頭葉損傷による注意障害、遂行機能障害、感情失禁、保続		
3	【到達目標】 地誌的見当識障害・パリント症候群・構成障害の定義、症状、病巣、評価、リハビリテーションの方法を説明できる 【授業内容】 視空間障害における地誌的見当識障害、パリント症候群、構成障害			11	【到達目標】 前頭葉機能障害の評価、診断、リハビリテーションの方法を説明できる 【授業内容】 前頭葉機能障害の評価とリハビリテーション		
4	【到達目標】 記憶の分類を説明できる 【授業内容】 記憶の基本概念と分類			12	【到達目標】 認知症の基本概念、診断基準、症状、薬物療法の概要を説明できる 【授業内容】 正常な加齢と認知症による社会生活水準の低下、認知症の基本概念と分類、薬物療法の概要		
5	【到達目標】 記憶障害の原因疾患、症状を説明できる 【授業内容】 記憶障害の原因疾患と症状			13	【到達目標】 認知症の評価の方法を説明できる 【授業内容】 認知症の評価方法		
6	【到達目標】 記憶障害の評価、リハビリテーションの方法を説明できる 【授業内容】 記憶障害の評価とリハビリテーション			14	【到達目標】 認知症のリハビリテーションの方法を説明できる 【授業内容】 認知症のリハビリテーションの方法		
7	【到達目標】 HDS-R、MMSEの検査を実施できる 【授業内容】 HDS-R、MMSEによる評価演習			15	【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を説明できる 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を説明できる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅰ Language Development DisordersⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中澤 裕也
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ポーター・早期教育プログラム認定相談員。							
【授業の学習内容】 言語発達障害児に対して、言語聴覚療法を実践してきた教員が自身の経験を含めて、質疑を繰り返し知識の定着を目指す。 また、障害像をより明確にする為に、DVD教材を活用し、視覚的に理解を深める。							
【到達目標】 ・言語発達障害の基礎知識を理解し、説明出来る。 ・言語発達障害の各障害別の言語コミュニケーションの特徴について理解し説明出来る。 ・言語発達障害に対する、評価・指導の方法について理解し、説明出来る。							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版」医学書院 配布資料				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので、予習復習を行う事。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語発達障害の基礎知識を学び、説明できる。 【授業内容】 言語発達障害の定義・分類。言語学的側面から見た言語発達障害について。言語発達の阻害要因。			9	【到達目標】 知的能力障害の臨床像を理解する。また、コミュニケーション能力やそれに対する対応を学ぶ。 【授業内容】 知的能力障害の動画から実際の臨床像や特徴を学ぶ。 また、グループで話し合い、ポイントを確認・共有する。		
2	【到達目標】 自閉症スペクトラム障害の定義・枠組みや歴史的背景を学び、説明出来る。 【授業内容】 自閉症の歴史的背景やWingの三つ組。 自閉症スペクトラム障害の定義や診断基準(DSM-5、ICD-10)など。			10	【到達目標】 知的能力障害の定義とICD-11における重症度分類について学び、説明できる。また、発生原因や発達特徴について学び、説明できる。 【授業内容】 知的能力障害の定義(医学上・行政上)。疫学と原因論。 ICD-11における重症度分類。		
3	【到達目標】 ASDの原因や予後について学び、説明できる。さらに、言語・コミュニケーションの特徴について学び、説明できる。 【授業内容】 ASDの有病率・発生率や原因、予後。 言語・コミュニケーションについて、発達の段階に合わせた特徴。			11	【到達目標】 知的能力障害の言語・コミュニケーションの特徴を学び、説明できる。知的能力障害の評価の目的や種類を学び説明できる。 【授業内容】 知的能力障害の言語・コミュニケーションの特徴。 評価の目的・種類の概要。		
4	【到達目標】 自閉症スペクトラム障害に対する、コミュニケーションの評価法について種類や概要を学び、説明できる。 【授業内容】 評価・検査法の種類や適応年齢などの概要。			12	【到達目標】 知的能力障害の言語面の評価や知的面の評価について、各検査の種類と適応年齢や検査項目等の概要を学び説明する。 【授業内容】 知的面・言語面の評価(検査法の種類・適応年齢など)。 実際の検査器具に触れて、具体的にイメージが出来るよう学ぶ。		
5	【到達目標】 ASDの治療についての概要や、事例を基に具体的な支援方法を学び、説明できる。 【授業内容】 ASDの治療についての概要。支援プログラムの大枠。 年齢別の具体的な支援方法の在り方。			13	【到達目標】 知的能力障害の支援に対する基本的な考え方を理解し、説明・実践ができるようになる。 【授業内容】 支援の適応判断。支援の基本的な考え方。社会資源の活用。 各発達段階ごとの支援の実践。		
6	【到達目標】 ASDの言語・コミュニケーション支援の方法として、ソーシャルスキルトレーニングとPECSについて理解し、実践できる知識を身に着ける。 【授業内容】 ソーシャルスキルトレーニングの概要と内容。 PECSの概要と内容。			14	【到達目標】 知的能力障害の支援に対する基本的な考え方を理解し、説明・実践ができるようになる。 【授業内容】 支援の適応判断。支援の基本的な考え方。社会資源の活用。 各発達段階ごとの支援の実践。		
7	【到達目標】 TEACCH自閉症プログラムについて学び、説明できる。① 【授業内容】 TEACCH自閉症プログラムの概要と物理的構造化、視覚的構造化について学び、説明できる。			15	【到達目標】 講義内容についての定期試験を実施し、知識の定着を図る。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 TEACCH自閉症プログラムについて学び、説明できる。② 【授業内容】 TEACCH自閉症プログラムの概要と物理的構造化、視覚的構造化について学び、説明できる。中間テスト。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅱ Language Development DisordersⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中澤 裕也
		授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 1・2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ボーテージ早期教育プログラム認定相談員。							
【授業の学習内容】 言語発達障害児・知的障害児・発達障害児に対して、実際に言語聴覚療法行なった経験から、評価・診断・訓練プログラムの現状や必要な知識・ポイントを具体的に講義し、より理解を深める。また、小児学内実習施設で子どもの言語聴覚療法を見学し、実際の障害像を理解したり、DVD教材などを使用して言語発達障害児の全体像をより具体的に掴む。さらにグループワークにて見学した内容のまとめや訓練プログラムの立案を行い、小児の臨床について理解を深める。							
【到達目標】 言語発達障害の評価・診断に必要な情報や検査について理解し、説明出来る。 小児学内実習施設にて、実際の指導場面を見学し、記録しまとめる事が出来る。 評価・診断の結果から、訓練プログラムを立案・実施する事ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編 ・言語聴覚障害診断―小児編― ・標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版 ・DVD教材				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので、予習復習を行う事。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【到達目標】吉田(座学) 特異的言語発達障害学(SLI)の基礎知識・評価について学び、説明できる。 【授業内容】 SLIの定義。 発達段階別の言語・コミュニケーションの特徴。			17・18	【到達目標】中澤(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
3・4	【到達目標】吉田(座学) 特異的言語発達障害学(SLI)のについて学び、説明できる。 実際に評価スケールを実施することができる。 【授業内容】 SLIの評価方法の概要とLCスケールの概要方法。 グループでの演習。			19・20	【到達目標】中澤(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
5・6	【到達目標】吉田(座学) LCスケールを実施することができる。 SLIの言語指導や支援方法を学び、説明できる。 【授業内容】 SLIの評価方法の演習。 SLIの言語指導・その他支援方法について。			21・22	【到達目標】中澤(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
7・8	【到達目標】吉田(座学) 動画から限局性学習障害について学び、グループワークで理解を深める。限局性学習障害の基礎知識を学び、説明できる。 【授業内容】 学習障害の臨床像など「書字読字困難」(動画視聴)。 限局性学習障害の定義。学習障害の各タイプ。			23・24	【到達目標】中澤(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
9・10	【到達目標】吉田(座学) 発達性ディスレクシアについて、定義・評価・支援方法について学び、説明できる。 【授業内容】 発達性ディスレクシアの定義・評価・支援方法。			25・26	【到達目標】中澤(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
11・12	【到達目標】吉田(座学) 注意欠陥・多動性障害(ADHD)の定義・概要を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの定義・言語・コミュニケーションの特徴。			27・28	【到達目標】中澤(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
13・14	【到達目標】吉田(座学) 注意欠陥・多動性障害(ADHD)の評価・支援を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの評価(検査法の概要)と具体的な支援方法。			29・30	【到達目標】吉田(座学) 言語発達障害学Ⅱの総復習 定期試験は、これまでの講義内容の復習をし、内容を理解する。 【授業内容】 動画の視聴。 定期試験。		
15・16	【到達目標】中澤(座学) インリアルアプローチについて、概要やSOULの基本姿勢や言語心理学的技法について学び、実践できる。ことばの教室の概要説明。 【授業内容】 インリアルアプローチ。ことばの教室について。			【評価について】 定期試験60点:座学から出題。 小テスト(2コマに1回)・中間テスト40点(ことばの教室)の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施することがある。)			
【特記事項】							

科目名 (英)	機能性構音障害 Speech Disorders	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中澤 裕也
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ボーテージ早期教育プログラム認定相談員。							
【授業の学習内容】 本科目では、機能性構音障害についての基礎知識や評価法・訓練プログラムの立案方法などを、教科書・参考資料を使用し講義を行うとともに、担当教員が臨床で経験した症例や知識を生かした講義や質疑応答形式・グループワークなどを行う。さらに動画・音声教材などを活用し、より具体的に臨床像を掴む事で、理解を深めて欲しい。							
【到達目標】 機能性構音障害についての定義・誤り音の種類や異常構音のタイプなど基礎的な知識を学び、説明する事ができる。 機能性構音障害の評価法である構音検査の実施方法と結果の解釈を理解し実施する事ができる。 構音障害のタイプに応じて訓練方法の選択・訓練プログラムの立案の方法を学び、説明する事ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「構音障害の臨床―基礎的知識と実践マニュアル改訂第2版」金原出版 ・異常構音サンプルCD、配布資料				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので、予習復習を行う事。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 構音の概要やメカニズム・構音器官についての概要を理解し、説明出来る。また、構音の発達について、子音の獲得時期等を理解し、説 【授業内容】 発声・共鳴・構音について 子音の獲得時期について			9	【到達目標】 タ行音・ダ行音の訓練方法の概要を学び実践できる。□ □ 【授業内容】 タ・ダ行音の構音訓練方法の演習		
2	【到達目標】 構音障害の誤り音の分類と構音障害の概要を理解し、説明できる。異常構音の定義と特徴を理解し、違いを説明出来る。 【授業内容】 構音の誤りのタイプ3つ 異常構音について			10	【到達目標】 サ行音・ツ・ズの訓練方法の概要を学び実践できる。□ □ 【授業内容】 サ・ザ・ツ・ズ行音の構音訓練方法の演習		
3	【到達目標】 構音検査の概要と実施内容・方法を理解し、説明できる。また、グループで演習することが出来る。 【授業内容】 構音検査の演習① 検査の実施方法			11	【到達目標】 異常構音の訓練方法の概要を学び実践できる。 【授業内容】 側音化構音・口蓋化構音の構音訓練について		
4	【到達目標】 構音検査のサンプルから、構音の誤りを記録用紙に記録する事ができる。また、グループで検査結果をまとめる事ができる。 【授業内容】 構音検査の演習② 検査の記録方法			12	【到達目標】 異常構音の訓練方法のの概要を学び、説明できる。 【授業内容】 咽頭破裂音・咽頭破擦音・声門破裂音の構音訓練について		
5	【到達目標】 構音検査のサンプルから、構音の誤りを記録用紙に記録する事ができる。また、グループで検査結果をまとめる事ができる。 【授業内容】 構音検査の演習③ 検査のまとめの仕方			13	【到達目標】 実際の構音検査の音声を聞いて、IPAを用いて検査結果を記録できる。また、グループで記録をまとめることが出来る。 【授業内容】 IPAの再確認。 構音検査の記録の仕方。		
6	【到達目標】 構音訓練の概要や注意点などを学び、説明出来る。また、系統的構音訓練の手順を学び、説明出来る。 【授業内容】 系統的構音訓練について 構音訓練(舌の脱力)について			14	【到達目標】 機能性構音訓練の実際について、異常構音別の出現率などを理解し、説明できる。 【授業内容】 異常構音別の出現率など。 鼻咽腔閉鎖機能に関する評価について		
7	【到達目標】 カ行音・ガ行音の訓練方法の概要を学び実践できる。 【授業内容】 カ・ガ行音の構音訓練方法の演習			15	【到達目標】 講義内容についての定期試験を実施し、知識の定着を図る。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 中間テスト。これまでの講義内容の復習をし、内容を理解する。カ行の構音訓練の演習 【授業内容】 中間テスト。 カ・ガ行音の構音訓練方法の演習			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	運動障害性構音障害 I Dysarthria I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	武田 桃子
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 2・3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【教員実務経験】 言語聴覚士として急性期の患者さんへリハビリテーションを提供した経験を持つ							
【授業の学習内容】 病院や訪問リハでの急性期・回復期・生活期・終末期の運動障害性構音障害の臨床経験を活かし、症例を紹介しながら基礎知識や評価方法を伝えたり、CD等を用いた演習授業を行う。臨床に必要な評価スキルの他、国家試験に出題されやすい知識について多く取り扱う。後天的なコミュニケーション障害の中では最も多い疾患であるため、敬遠せず貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 ・運動障害性構音障害の病態や発話特徴がわかる。 ・運動障害性構音障害のタイプとその特徴がわかる。 ・運動障害性構音障害の評価が実施できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「ディサースリア臨床標準テキスト」医歯薬出版				【授業外における学習】 教科書該当ページを読んで予習できると良い。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 運動障害性構音障害の定義や運動機能障害の病態が分かる。 【授業内容】 p1, 2, 5, 16-18 失語症や発話失行との鑑別や、麻痺や失調や筋萎縮などの運動機能障害の基礎知識を学ぶ。			9	【到達目標】 OSCE(客観的臨床能力試験)を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する。 【授業内容】 p102-105 OSCEを行い、フィードバックを受ける。		
2	【到達目標】 呼吸・発声機能障害や鼻咽腔閉鎖機能不全による発話特徴が分かる。 【授業内容】 p18-20 CDにて特徴的な発話を聞きながら、発話の途切れや嚁声や声のふるえや開鼻声などの症状について学ぶ。			10	【到達目標】 標準ディサースリア検査(AMSD)が実施できる。⑤ 【授業内容】 AMSDの口腔構音機能(筋力)の検査について、手続きを学び実施する。検査結果の解釈について学ぶ。		
3	【到達目標】 口腔構音機能障害やプロソディー障害が分かる。 【授業内容】 p20-22 CDにて特徴的な発話を聞きながら、構音の歪みや発話速度の変動や声の高さの単調性などの症状について学ぶ。			11	【到達目標】 運動障害性構音障害のタイプと特徴について学ぶ。① 【授業内容】 p57,62-65 痙性、弛緩性の各タイプの特徴について、問題演習をまじえながら学ぶ。		
4	【到達目標】 発話特徴抽出検査の内容について理解し実施できる。 【授業内容】 配布資料 声質、声の高さ大きさ、速さ、話し方、共鳴構音、全体評価について、それぞれ5段階評価を行う。			12	【到達目標】 運動障害性構音障害のタイプと特徴について学ぶ。② 【授業内容】 p65-71 一側性上位ニューロン性、失調性、運動低下性、運動過多性の各タイプの特徴について、問題演習をまじえながら学ぶ。		
5	【到達目標】 標準ディサースリア検査(AMSD)が実施できる。① 【授業内容】 p90-91 AMSDの構成について学ぶ。情報収集、発話明瞭度、発話の自然度、発話特徴、発話速度について検査手続きを学び実施する。			13	【到達目標】 運動障害性構音障害の症例報告書を作成できる。 【授業内容】 p111-113 症例の動画やレジュメから、ICFによる評価を行う。		
6	【到達目標】 標準ディサースリア検査(AMSD)が実施できる。② 【授業内容】 p99-101 AMSDの呼吸機能や発声機能の検査について、手続きを学び実施する。検査結果の解釈を学ぶ。			14	【到達目標】 これまでの学習内容を復習し、臨床実習や国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 これまでの学習内容について、問題を解きながら復習する。		
7	【到達目標】 標準ディサースリア検査(AMSD)が実施できる。③ 【授業内容】 p101-105 中間テストを実施する。AMSDの鼻咽腔閉鎖機能検査について、手続きを学び実施する。検査結果の解釈について学ぶ。			15	【到達目標】 定期試験を通し、これまでの学習を総復習する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。		
8	【到達目標】 標準ディサースリア検査(AMSD)が実施できる。④ 【授業内容】 p102-105 AMSDの口腔構音機能(運動範囲、交互反復運動)の検査について、手続きを学び実施する。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	嚥下障害概論 Swallowing Disorders Introduction	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	矢澤 一彦
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 知的障害者施設の口腔内及び嚥下障害について10年実務につき、病院にて摂食嚥下障害の診療(主に嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査)に携わってきた。							
【授業の学習内容】 摂食嚥下障害は、イメージが掴みにくく、解剖学的知識が非常に重要である。しかし、解剖は覚えることが多く、わかりにくい。したがってこの講義では、摂食嚥下障害をわかりやすくするために図を多用したり、嚥下障害に対する診療経験を活かし実際の症例の写真や動画などを用いながら説明する。また、卒業後の臨床に役立つような講義を行う。							
【到達目標】 摂食・嚥下器官及びその生理や神経機構の基礎を十分に理解し説明できる 日常臨床で頻繁に出くわす神経疾患のパーキンソン病や球麻痺など病態像を説明できる。 嚥下内視鏡や嚥下造影検査の画像を診て、臨床に生かせるようにする。							
【使用教科書・教材・参考書】 摂食嚥下障害リハビリテーション第3版 医歯薬出版株式会社				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 摂食嚥下器官である口腔と咽頭の解剖用語を列挙し、各々について説明できる。 【授業内容】 口腔の構造 テキストP44～P51			9	【到達目標】 摂食嚥下機能の加齢変化、フレイルが及ぼす栄養障害と嚥下障害について学び、説明できるようにする。 【授業内容】 摂食嚥下機能の加齢変化、フレイルと栄養障害 テキストP113～P121		
2	【到達目標】 摂食嚥下器官である喉頭と食道の解剖用語を列挙し、摂食嚥下機構にどのように関わっているかを具体的に説明できる。 【授業内容】 鼻腔、咽頭、喉頭、食道の構造 テキストP52～P59			10	【到達目標】 口腔ケアなどの口腔衛生管理について学び、その手技などを説明できるようにする。 【授業内容】 口腔衛生管理 テキストP185～P193		
3	【到達目標】 摂食嚥下に関与する筋はどのようなものがあるかを列挙し、その起始停止を説明できるようにする。 【授業内容】 摂食嚥下に関与する筋 テキストP60～P67			11	【到達目標】 摂食嚥下障害に対する外科的アプローチや口腔内装置にはどのようなものがあるかを列挙し、説明できるようにする。 【授業内容】 摂食嚥下障害への介入における外科的対応、口腔内装置による対応 テキストP236～P251		
4	【到達目標】 摂食嚥下の概要を理解し、その神経機構につき説明できるようにする。 【授業内容】 摂食嚥下の概要 テキストP68～P79			12	【到達目標】 摂食嚥下障害に対する口腔内装置による介入にはどのようなものがあるかを列挙し、説明できるようにする。 また、VEやVFIに関する基礎を学ぶ。 【授業内容】 摂食嚥下障害への介入における口腔内装置による対応 テキストP236～P251		
5	【到達目標】 3D—CTやMRIなどによる脳画像と嚥下生理を理解し、説明できるようにする。嚥下障害に関するグループワーク 【授業内容】 3D—CTによる嚥下生理及び嚥下のニューロサイエンス テキストP79～P91			13	【到達目標】 認知症や脳血管障害、神経筋疾患に関する基礎知識を理解し、各々の特徴について説明できるようにする。また、脳CTとVE、VF画像を学ぶ。 【授業内容】 配布資料、動画		
6	【到達目標】 摂食嚥下と呼吸・生理について理解し、説明できるようにする。また、摂食嚥下のモデルにつき説明できるようにする。 【授業内容】 摂食嚥下のと呼吸・生理、摂食嚥下モデル テキストP92～P105			14	【到達目標】 認知症や脳血管障害、神経筋疾患に関する基礎知識を理解し、各々の特徴について説明できるようにする。また、脳CTとVE、VF画像を学ぶ。 【授業内容】 配布資料、動画		
7	【到達目標】 摂食嚥下のモデルにはいくつかあるが、それぞれにつき説明できるようにする。 【授業内容】 摂食嚥下モデル テキストP96～P105			15	【到達目標】 第1回～14回までの講義の理解度を確認し、これまでの講義内容を総復習する。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 第1回～第7回までの理解度を確認し、第1回～7回までの講義内容に復習また、発達と摂食嚥下機能の獲得過程について説明できるようにする。 【授業内容】 中間試験、発達と摂食嚥下機能の獲得過程 テキストP106～P112			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴力検査法 I Hearing Test I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	畦地 雄平
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 1・2 限
【教員実務経験】 総合病院、訪問看護リハビリステーション勤務時、急性期及び生活期のリハビリテーション業務の実務経験がある。							
【授業の学習内容】 病院、訪問業界で臨床経験を積んできた教員が、聴覚検査について理解が深められるように聴覚検査の検査法を習得できる授業を行う。具体的には、検査前の準備、検査法のイメージを抱けるように実場面の動画を豊富に活用して教授する。また聴覚検査内で取り扱う専門用語を適切に使用して説明できるようになることを目標とする。能動的							
【到達目標】 聴力検査の種類、目的、検査方法や手順、結果の解釈が説明することができる。 純音聴力検査・語音聴力検査・自記オーージオメトリーの正しい方法を学び、実際に実施ができるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 【聴覚検査の実際 改定4版】南山堂				【授業外における学習】 毎回、授業後に復習をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 伝音難聴難聴、感音難聴、混合難聴、心因性難聴の違いを説明できる 音の基礎知識を知ることができる 【授業内容】 各疾患の症状、経過、診断 純音、周波数、音圧、音圧レベル、聴野、ラウドネス、ピッチ、音色			9	【到達目標】 目記オーンオメトリーの検査方法、結果の解釈を説明することができる 補充現象、一過性閾値上昇を理解し説明することができる 【授業内容】 自記オーージオメトリーの演習		
2	【到達目標】 オーージオメーターの使い方を説明できる 聴力検査の種類を知り説明できる 【授業内容】 オーージオメーター保守点検整備 オーージオグラム			10	【到達目標】 語音聴力検査：語音了解閾値検査(SRT)の目的、方法、結果の解釈を説明することができる 【授業内容】 語音聴力検査とは、目的 語音了解閾値検査：スピーチオージオグラム		
3	【到達目標】 気導聴力検査の準備、予備検査の提示、順序を説明ができる 気導聴力検査の本検査の提示、順序を説明ができる 【授業内容】 検査前の準備、検査法(予備検査・本検査) オーージオメーターを使用した演習			11	【到達目標】 語音聴力検査：語音了解閾値検査(SRT)の目的、方法、結果の解釈を説明することができる 【授業内容】 語音了解閾値検査：演習		
4	【到達目標】 気導聴力検査の準備、予備検査の提示、順序を説明ができる 気導聴力検査の本検査の提示、順序を説明ができる 【授業内容】 オーージオメーターを使用した演習			12	【到達目標】 語音聴力検査：語音弁別検査の目的、方法、結果の解釈を説明することができる 【授業内容】 語音弁別検査とは、目的と検査手順 語音弁別閾値検査：スピーチオージオグラム		
5	【到達目標】 骨導聴力検査の提示、順序を説明できる 【授業内容】 オーージオメーターを使用した演習			13	【到達目標】 語音聴力検査：語音弁別検査の目的、方法、結果の解釈を説明することができる 【授業内容】 語音了解閾値検査：演習		
6	【到達目標】 マスキングに使用する用語、ノイズの種類と効果、必要な場合を説明することができる 【授業内容】 交叉聴取・両耳間移行減衰現象 オーバーマスキング・マスキングノイズ			14	【到達目標】 語音聴力検査：語音弁別検査の目的、方法、結果の解釈を説明することができる 【授業内容】 語音了解閾値検査：演習 語音弁別閾値検査：演習		
7	【到達目標】 目記オーンオメトリーの検査方法、結果の解釈を説明することができる 補充現象、一過性閾値上昇を理解し説明することができる 【授業内容】 自記オーージオメトリーの検査方法、Jerger分類と結果 補充現象、一過性閾値上昇の理解			15	【到達目標】 これまで学んだ聴力検査について改めて復習し理解を深める 中間試験、解説 聴力検査のまとめ 【授業内容】 定期テスト 定期テスト解答解説		
8	【到達目標】 これまでの学習の総復習を行い中間試験に挑む 【授業内容】 中間試験、解説 聴力検査のまとめ			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							